

ささやき
サケの 嘴

走りつづけた10年の足跡



北海道サーモン協会



HOKKAIDO
SALMON
SOCIETY

あいさつ

「豊平川に上るサケは、美しい環境をつくり、新しい市民意識を育て、明るい未来を招きます」

これは、37年前のカムバックサーモン運動が掲げた『札幌「サケ」の憲章』の一節です。私たちは、この灯火を受け継ぐため2005年に北海道サーモン協会を設立しました。以来、憲章の言葉を『サケの棲む美しい環境と、サケ文化のある豊かなふるさとを子どもたちに』の言葉に替えて活動してきました。しかし、発足当時の財政的展望は必ずしも楽観出来るものではなく「どんな小さな活動でもやらないよりはまし」「無いならあるだけでやればよい」が合い言葉の船出で、使命感だけが頼りでした。そして10年、いま北海道サーモン協会は静かに幕を閉じます。

この間を振り返りますと、当初の予定よりかなり欲張った計画を掲げた活動となりましたが、運営委員の熱意と献身的な努力で実績を残す事ができ、ささやかながらも会の使命を果たす事ができたとの自負を感じております。これといいますのも、会員皆様を始めご支援頂いた各界の暖かい励ましがあったからこそ、それを思いますと万感胸に迫る思いがいたします。

この度は、いつの日かこの活動が、再び受け継がれる願いを込めて記念誌を編纂いたしました。いささか雑ばくではありますがご協力を頂いた皆様へ、感謝のしるしとしてお届けいたします。

2016年3月

北海道サーモン協会

代表 木村 義一

メッセージ

〈目 次〉

◇あいさつ	1
◇目 次	2
◇メッセージ	3 ~ 8
◇活動	
◆公開市民講座	9 ~ 17
◆サケ学習国際交流	18 ~ 24
◆サーモンロードふれあいツアー	25 ~ 27
◆サケ会議	28 ~ 33
◆産卵床観察と河畔清掃	34 ~ 35
◆夏休み親子サケ教室	36
◆サケフェスタ	37
◆会員交流会	38
◇トピック	39 ~ 43
◇会 則	44 ~ 45
◇役員名簿	46
◇助成金(補助金)提供	46
◇法人会員名簿	47
◇個人会員名簿	47
◇年 表	48 ~ 58

人間と鮭文化の架け橋めざす

〈'05. 4. 25〉

環境保全から食味の探求まで

この4月に「北海道サーモン協会」が発足しました。これまでの市民サケ運動の精神を受け継ぎ、新たな1つの文化活動を目指します。

戦後、札幌の人口が級数的に増大し、その飲料水の確保と生活排水のために豊平川の生物環境は悪化し、サケそも1954年からは途絶えてしまいました。やがて、札幌オリンピック（1972年）を機に汚水対策が進み、豊平川の生物環境は大きく改善、回復しました。その状況から、サケそを再現しサケと市民の新たな関係を目指そう、との願いで起ったのが1978年（昭和53年）の「カムバッケサーモン」運動でした。

「サケと市民の新たな関係」を目指したこの理念は、やがて「北海道サケ友の会」に引き継がれ、その活動は20数年にわたりましたが、この3月、活動に終止符を打ちました。経済状況の停滞や会員の高齢化などの状況からですが、もう一つには市民の「サケが上るようになって、サーモン運動は終わった」との思いから協力が薄らいだことでした。しかし、運動はこれからです。「サケが棲める環境を守り続ける」ことが運動の原点ですから。

「北海道サーモン協会」の発足は、自然を守る活動は継続こそが重要との思いからです。今後は市民と共に、食文化をはじめサケのいろいろな情報を楽しみながら生物と環境を考える、そのような活動を拡げたいと考えています。



子どもたちに伝えたい「豊かな自然」

〈'05.12.1〉

広げよう市民の輪

豊平川の扇状地に拓かれた札幌は、100年ほど前までは植物園や桑園地域にはわき水があふれ、サケの一大産卵地帯でした。しかし、人口の増加・街の発展と共に地下水地帯が失われサケは姿を消しました。幸い河川環境が大きく改善され、カムバック運動による稚魚の放流によって途絶えたサケが再び川を上るようになりました。

しかし、上る数が少ないとことや放した数に対する回帰率が低いことが気になります。豊平川は、本当に生態系豊かな昔を取り戻したのでしょうか。川本来は、山の栄養を海に注ぎ、海の豊かな栄養をサケが運ぶ川なのです。そんな自然こそ「豊かな自然」であり「サケのふるさと」なのです。いやサケだけでなく、私たちが子ども達に残したい本当の「豊かなふるさと」ではないでしょうか。そんな思いを託して会の名前を付けました。

皆さんと一緒に「楽しくサケを知る」ことから始めたいと思っています。そしてその輪が全道に広がることを目標にしております。

生まれ出づる悩み

〈'06.6.10〉

そしてこれから

カムバックサーモン運動の理念を受け継いで27年間活動してきた北海道さけ友の会が解散を決めたとき、多くの関係者は意氣消沈しました。同時に、市民との活動が手薄になっていたことも反省させられました。これを続ける途は？簡単な答えはありません。しかし、分相応な活動でもいいじゃないか、もう一度市民に呼びかけよう。そう決め、会の設立を決断したのはその年明けでした。

この1年を顧みますと、薄氷を踏む思いがします。立案即実行で一つ狂えば挫折しかね



ない中で動き回りました。現役が多い運営委員ですが、労を惜しまず活動しました。そして何より励まされたのは、多くの方の協力、資金の提供、会員の紹介など多岐にわたる支援でした。

これからまた1年、このご支援に応えるためにも、心新たに社会に認知される市民運動に育て上げるよう活動したいと思っています。

「カムバックサーモン」から30年

〈'07.12.20〉

その残したもの遂げるべきもの

北海道さけ友の会が、カムバックサーモン運動の理念を受け継いだ27年間を経て解散することになりましたが、新たに取り組んできたカナダの子ども達との「国際サケ学習交流事業」も軌道に乗っていました。北海道サーモン協会はこの取り組みを継続します。また、「カムバックサーモン」の理念を「サケをシンボルに豊かなふるさとを子ども達に残し伝えよう」に代えてサケ文化にも取り組みます。厳しい財政ですが、会員の方々の熱い思いが背を押してくれます。

サケのふるさとは豊かな生態系を持つ川。いろいろな鳥がさえずり、様々な魚が群れます。子ども達は昔のように、釣り竿を持って行き来するでしょう。「サケのふるさと」は「子ども達のふるさと」。そんな夢を見ながら、多くの方々の応援と参加を願っています。



サケを「北海道の魚」に制定を

〈'07.12.20〉

「鳥はタンチョウ、木はエゾマツ、花はハマナス」道が制定した北海道のシンボルです。魚は？無いのです。身近で子ども達にも親しまれているサケ。文化として、産業として、食材として、教材としても北海道を代表するサケ。道民のすばらしい財産、まさにカムイチップ（神の魚）として北海道のシンボルにふさわしい魚ではありませんか。

まだ続けるの？「カムバッカサーモン」

〈'08. 5. 31〉

会が発足して4年、3年計画も終わり次の区切りを目指して踏み出す年です。振り返ると、物心両面の後押しのおかげで順調に歩んでこられたことは「無いなら無いように、それでもやらないよりはまし」との思いを原点にして始めた私たちにとっては存外の喜びです。その中で、あらためて「カムバッカサーモン」が目指す原点を思い返しています。

開発は、自然環境と引き替えに行うのが宿命の中で、札幌の現状は、よくぞここまで自然が守られてきたものだとあらためて思います。これは、見守る市民の意識があったからで「カムバッカサーモン」に共感した市民の力が原動力になっていたに違いありません。今後も地域機能化のために開発は進むでしょう。多かれ少なかれ、自然との引き替え、市民の関心が薄れたとき、今日の利便のためだけに自然が損なわれるかもしれません。失ったふるさとを取り戻すことは至難のことです。そう考えると「カムバッカサーモン」運動には終わりがありません。



アイヌとサケ

〈'09. 12. 28〉

感謝に満たされた「すばらしい自然観」を知る

蝦夷地の豊かなサケは、アイヌの生活の知恵で守られていました。やがて松前藩が統治を始め、商人が漁場を管理するようになって、見る見るうちにサケが減少し、不毛の長い時代が続きました。「自然の摂理で生きる」アイヌ文化のすばらしさを知らされます。今になってアイヌ文化のすばらしさを知るのは、日常アイヌに触れることがない上、隣りに誇りを持ったアイヌ文化の担い手が育っていなかった事も一因だと思います。今年5月には、アイヌ伝統文化を守る画期的な法律も制定されました。そんな中で「ウレシバ（育て合い）の活動」を知りました。札幌大学が進める活動で、



アイヌ文化の担い手を育てる奨学教育活動といいます。その活動の発展を期待すると共に、自然と遊離して進化する文明の中に生きる我々は、今こそアイヌの自然観を学ぶべきだと思います。

サケ食のすすめ：習慣病・成人病に際立つ効果

欧米が注目する日本食生活の主役

1989年イギリスのDr.マイケル・クロードが、学会で「日本の子どもが頭がよいのは、魚を食べるから」と発表して話題になりました。その頃は、国際的な学力テストで、日本の子どもがトップでした。論文の根拠は、青魚やサケには、胎児や幼児の脳の発達を促すDHAやEPAが多く含まれていることです。更に日本、アメリカ、オーストラリアのお母さんの母乳に含まれるDHA量の測定検査では、他の2国は7と10 (mg / l) に対し、日本は22 (mg / l) と群を抜いていて、Dr.クロード説の裏付けとなりました。DHAもEPAも獣肉には含まれてはいないのです。そればかりではなく、サケにはワインを上回る抗酸化力を持つアスタキサンチンを始め、健康に有効な希少成分が沢山含まれていますし、低カロリー、高タンパクも子どもや高齢者には優れた食材です。サケは「理想の自然健康食材」といわれる所以なのです。



ちょっと待ってよ、そのヤマメ放流

〈'11. 6. 2〉

ブラックバスなどの外来種が放され、在来種への影響が問題になっています。しかし在来種だけの問題ではありません。

ヤマメは海に出る前のサクラマスで、北海道から石川県まで分布します。北海道では多くが海に出て、産卵のために川を上りますが、南に行くほど体が大きく、海に下がらず川で生涯を過ごす割合が増えます。そのように、同じヤマメでも、地域によって異なる性質を持つサクラマスを移植放流することは、遺伝形質を変えたり、その川固有のサクラマスを減らしたりする恐れのあることが分かってきました。

良かれと思ってすることが、自然の仕組みに有害となることを考えなければなりません。

サケ食こそ日本の原点

〈'13. 5. 31〉

縄文時代の日本の人口は、西日本より東日本が多かったといわれます。日本で米が作られるようになった弥生時代からは、東日本より西日本が多くなりましたが、東日本の人気が多かった主因の一つは、サケこそが基本的な食べ物だったからです。

ひるがえって今を見ると、米よりも日本的なこの食べ物を、私たちはないがしろにしてはいないでしょうか。食卓に肉が入って魚が衰退し、肉類の蛋白に偏重した生活は、日本人の趣向だけでなく考え方まで変えて、培ってきた古来の文化まで悪質変化させたように見えます。

日本のサケが中国経由でヨーロッパへの輸出が増えています。日本人は、健康的で優れた食材「サケ」をわざわざ外国人のために捕っているのです。理想の自然健康食のサケを輸出して食文化自体を失いつつある現状を、日本人は恥じなければならないのではないかでしょうか。



公開市民講座

自然健康食としてのサケ、安心安全のサケ普及をめざし『北海道のサケを知ろう』をテーマに、サケ文化講座やサケ調理教室、試食会を行いました。この講座では、道ぎょれん、札幌中央水産株、佐藤水産株、道さけます事業協会、道定置漁業協会の協賛、ご協力を頂きました。

「旨くて安心！秋サケのすべて」

〈'05. 9. 30〉

『道産サケを知ろう』をテーマとしたシリーズの第1回として開催したこの講座には、100名を超える市民、特に多くの女性の方が参加しました。日常は、お弁当やおにぎり程度に馴染むサケも、実は奥深く、話題性に富む魚。特に、安全安心の「天然理想食品としての秋サケ」について考えよう、それが今回のテーマです。講演の後は、調理室の定員から二組に分けて試食会を行いました。

講演では、サケの不思議な生態や、サケの想像以上の栄養価のお話に熱心に聞き入り、調理室の机に展示した市販のサケ12尾の前では、あらためて種類の多さや栄養価の違いに驚いたり、続く試食会では思わず歓声を上げたり、終始和やかな雰囲気で終了しました。



講演 《天然サケの魅力》

.....北海道大学 羽田野 六男 氏

大海で育つサケは希少な成分が蓄積しています。そのうちのアミノ酸は肉類に比べ10ポイント消化率がよい。また脂質に含まれるDHAやEPAは癌に冒されにくい体质作りに役立つといわれています。しかし、限られた環境で育つ場合は、その環境によっては有害物質を体内に取り込むことがあります。養殖サケにはその恐れがあるとされています。栄養と安全性こそ秋サケの特質なのです。



講演 《みんなの知らないサケの不思議》

.....千歳サケのふるさと館 菊池 基弘 氏

サケの仲間は世界で68種類。市販の「サケ」だけでも多く、それに商品名での違いも加わって複雑で、市民は混乱しそうです。

海に出たサケは、オホツク海、ベーリング海で育ち、生まれた川に帰ります。親になるのは2～8年、主体は4年。サケの仲間で海に出ないのはサクラマスの「ヤマメ」、ベニサケの「ヒメマス」。「臭いで生まれた川へ帰る」といわれていますが、まだ分からないうことが多く、体内時計や場所の認知など複合的な能力で帰るのではないかとも考えられています。



講演 《豊平川のサケ》

.....豊平川さけ科学館 有賀 望 氏

河川環境悪化でサケがいなくなった豊平川に、再び姿を現したのは1981年。カムバックサーモン運動で稚魚を放流した成果でした。この運動でさけ科学館も誕生し、教育活動（小学校のサケ学習）にも取り組んでいます。豊平川の調査では、天然産卵のサケが増えています。豊平川のサケは、河川全体の自然な生態系を豊かにするために、天然産卵が増え、その分人工ふ化稚魚の放流数を少なくすることが目標です。



サケ試食会

・一塩サケ・山漬け・ルイベ



「神の魚・秋サケのすべて—天然と養殖の功罪」

⟨'06. 9. 30⟩

エルプラザ大研修室（90席）に大勢の市民が参加しました。自然のバランスを崩したり、自然を無視するように発展を続ける現代文明。その先に、本当に人間の安らぎがあるのだろうか。静かに、自然の摂理を思い返す必要があるのではないでしょうか。今回は「アイヌとサケ」を通して、自然と共に生きてきたアイヌ（人間）の自然観を尋ねました。また、現在のサケの流通について学びました。

講演 《サケとアイヌ文化》

.....アイヌ文化活動アドバイザー 結城 幸司 氏

「イランカラブテ」アイヌの挨拶で「あなたの心に触れさせて」という意味。サケはユーカラ（叙事詩）を始め、アイヌ文化によく登場します。「カムイチエブ」は儀式用の呼び名。普通は「シエペ（シ：本当の、エ：食べる、ペ：物）」といい「真の食べ物＝主食」の意味です。サケは神が放したものとして心を込めて祈り、迎えていました。そのため、川を守る、いろいろなタブーがあったのです。アイヌには水、海、川、風などの10以上の神があります。その全てがバランスよく成り立つとシエペが来ると考え、イナウをたてて祈っていました。

今指摘されている自然との問題も、自然とのバランスに思いをはせ、そこから創造することが出来れば、解決の糸口が生まれると思っています。



講演 《北海道産秋サケが欧米で人気》

.....道漁連 中村 隆一 氏

現在、世界のサケの生産量は2,300～2,400万トン。内天然は800万トンで3分の2は

養殖。日本は20～30万トンで全てが天然で、平成14年までは殆ど国内で消費されていましたが、その後、9～9.5万トンは中国へ輸出。更に中国は加工して欧米へ輸出しています。北海道のサケは「ワイルドサーモン」と名付けられて人気があり、ブームになっています。その一方、日本では養殖物が幅をきかせています。今、私たちは生産者とお金を取り合い、「北海道の秋サケキャンペーン」を行っています。

試食会 • 山漬け・燻製・ルイベ

「安全・安心、自然健康食“サケ”を知ろう」

〈'07. 9. 30〉

シリーズ「北海道産サケを知ろう」の第3弾は「安全・安心のサケ」から「自然健康食のサケ」を主題に行いました。エルプラザ大會議室（90席）の会場はほぼ満員。まず、語っても尽きない「サケの不思議」や、おいしいサケとはどんなサケかを学び、次いで今は幻の「塩イクラ」造り実習と試食をしました。塩イクラはその味と共にパンにも合う意外性もあって、会場を沸かせました。

調理室の定員から2班に分かれての実習で、待機組には協会の活動を映像で紹介し、賞賛を得ました。

講演 《サケはなぜ生まれた川に帰るのか》

..... 北海道大学 上田 宏 氏

サケは冷水性の淡水魚。川で十分に餌をとれなくなつて海へ出、海では受精できなくて川へ戻ることで「母川回帰」の遺伝子を獲得したと考えられていますが、まだ、学問上多くの謎があります。母川回帰は、脳の中に時計や地図がありコンパスも使うと思われます。実験では、視覚や臭覚を失うと生まれた川には戻れませんでした。サケの臭覚は犬以上で非常に感性が高いのですが、多くの種類を嗅ぎ分ける能力はありません。まだまだ不思議なサケですし、温暖化や、資源の管理の問題なども含めて、サケの研究は尽きません。



講演 《おいしいサケってどんなサケ》

..... 北海道サーモン協会 木村 義一 氏

6、7月に日高沖で捕れる「トキシラズ」、羅臼などで捕れる「ケージ」、紋別で捕れる「メジカ」などは古くから「おいしいサケ」の代表。近年では沿岸の上質サケを地域ごとの「銘柄サケ」として市場に出ています。共通の「おいしさのカギ」は「脂の質と量」。サケは産卵50～60日前になると全く餌を探らなくなり、体内の脂をエネルギーに変える

ので産卵期が近いほど脂が無く味が落ちます。しかし「サケは塩次第」という言葉があるように市販の塩サケでは塩加減も大きな要素になりますし、更に、川ごとの遺伝子にも関係するようです。これでは「おいしいサケ選び」は消費者に難しそうです。結局、それらを専門に総合して決める「値段」が「おいしいサケ」の指標ということになります。



講演 《映像でたどる協会の活動》

..... 北海道サーモン協会 高橋 寿一 氏

北海道サーモン協会の活動をご紹介いたします。この運動にご理解、ご協力を頂ければ幸いです。（この後、会の生い立ちや目的も交えて、各活動の記録を紹介）



調理実習 • 秘造塩イクラ調理

「実験例やクイズでサケを知ろう」

〈'08. 9. 27〉

会発足時の計画では「サケ文化」全般わたる講座として、3年ごとにテーマを考えることにしておりましたが、「食」としての関心の高さとその重要性から、今後も「理想の自然健康食秋サケ」の宣伝・普及を目指すことにしました。その4回目となる今年は、札幌市民には関心の高い「豊平川のサケ」について学び、市販されている多様な「サケ」について、学びました。

講話 《豊平川のサケは今どうなっている》

..... 豊平川さけ科学館 岡本 康寿 氏

河川環境の悪化からサケが途絶えた豊平川に再びサケが戻ったのは1981年。今年も上ってきました。毎年上る数は1,000～2,000尾ほどで、多くが自然産卵しています。科学館ではその一部を捕獲し、人工ふ化しています。



日本のサケの保護は漁業のために行っていますが、豊平川は「社会教育河川」に位置づけられています。

都市を流れる豊平川は、治水第一になる中、サケ河川としてどうするかはこれからです。それには多くの問題があります。河畔の緑、川への雪捨て、適切なサケ放流数の問題もあります。更に、研究継続のためには科学館の指定管理者制度の問題もあります。

講話 《サケの種類ってこんなにあるの》

..... 北海道サーモン協会 木村 義一 氏
(市販サケの全てを展示して) 現在の商品には「おいしいサケ」と「おいしそうなサケ」や、「健康食のサケ」と「健康食そうなサケ」があります。日本のサケ消費量は約50万トン、生産量は約30万トンで絶対量が不足し輸入していますが、どれを優先的に選ぶか、賢い選択をしてください。

料理教室 ・鮭ご飯のおにぎり・鮭の唐揚げサラダ・鮭のハンバーグ

..... 講師 安部 紀子 氏



「賢く選ぼう理想サケ・子ども達には健康サケを」

⟨'09. 9. 26⟩

従来は、午前午後の2班に分けて開催しましたが、反省点も含め、今回から午前午後を通して余裕のある講座を目指しました。また、調理、試食会には運営委員も参加し、交流を図ることになりました。

講話 《あなたもサケ博士になりますよ》

..... 北海道サーモン協会 木村 義一 氏

サケには不思議な生態がたくさんあります。また、理想の自然健康食品としてのサケを学んでください。北海道は天然サケの宝庫。それを輸出して問題のある輸入サケを食べています。「三つ子の魂」のことわざ通り、小さいときの経験が好き嫌いの原点、あなたもサケ博士になって、子どもが小さいときに、天然サケ=秋サケの味を覚えさせてください。

料理教室 ・秋サケ洋風ちらし寿司

..... 講師 金田 蘭子 氏



「アメリカにもサケ料理が…」

⟨'10. 10. 2⟩

講座のテーマはこれまで「サケの不思議」と「健康食サケの魅力」としてきましたが、毎回の参加者は初めての方が多い現状から、今後もテーマを続けることにしました。また、料理講習では、アメリカからの研究生に、アメリカの家庭サケ料理を教えて頂きました。

講話 《サケの不思議》

..... 千歳サケのふるさと館 菊池 基弘 氏

「サケ・マス」といいますが、生物学ではみな「サケ属」です。海では銀に輝くスマートなサケも、産卵が近づくにつれて、鼻が伸び曲がってきますし、銀の鱗は色づいた模様に代わります。同じサケの商品でも味は様々で、一般には若いほど味が良く、トキシラズ、メジカ、ケージなどの他、地元の商品名を付けた上等サケまで、いろいろな「おいしいサケ」が店頭に並んでいます。

料理教室 ・アメリカのサケの家庭料理

..... 講師 ヘザー スワンソン 氏



「カナダにもサケ料理が…」

〈'11. 9. 26〉

さけますセンターの野川氏を招き「サケ」の不思議について学びました。料理講師は札幌でカナダ料理店を経営するギャニオンさんに、カナダのサケ料理をご披露頂きました。

講話 《北海道の秋サケ》

…さけますセンター 野川 秀樹 氏

(サケの生活史、不思議な生態について
お話をいただきました)



料理教室 ・カナダのサケ料理

.....講師 マーク ギャニオン 氏



「マーケットに並ぶいろいろなサケ・その選び方」

〈'12. 9. 29〉

市民約80名が参加し、サケの生態、食品としての価値について勉強しました。

講話 《サケの不思議と選び方》

.....北海道サーモン協会 木村 義一 氏

(サケの生活史、食材としてのサケについてのお話がありました)

料理教室 ・カナダのサケ料理

.....講師 マーク ギャニオン 氏

「子ども達に《本当のサケ》を」

〈'13. 9. 26〉

会場確保の難から平日開催となり、参加者も例年を下回る40名ほどで開催し、例年通り、サケの勉強をしました。

講話 《美味しいサケ・美味しそうなサケ》

.....北海道サーモン協会 木村 義一 氏

(サケの生活史、食材としてのサケについてお話がありました)

料理教室 ・サケを使った家庭料理

.....講師 松井 英美子 氏



「サケの不思議・優等食品のサケとは」

〈'14. 9. 26〉

サケの不思議な生態・マーケットに並ぶ数多い食品としてのサケを学びました。

講話 《サケもいろいろ・どのサケがおいしいの》

.....北海道サーモン協会 木村 義一 氏

(サケの生活史、食材としてのサケについてお話がありました)

料理教室 ・サケを使った家庭料理

.....講師 丸山 奈緒子 氏



サケ学習国際交流

1 事業の沿革

北海道サーモン協会設立以前の交流

「北海道サーモン協会」が設立されたのは2005年ですが、それ以前に「さっぽろサケの会」の主導の下、1985年から1991年まで7年間、毎回10名から39名の小中学生がカナダBC州バンクーバー、バーナビーに派遣されていました。派遣者数は合計140名に及びます。

その後、団体名は「北海道サケ友の会」となり、1993年から2002年までの10年間隔年で「相互派遣・受入」が行われ、各回約20名の小中学生が参加しました。北海道側の派遣人数は合計90名、カナダ側派遣人数は92名となりました。カナダへの派遣先は第1回はポートアルバニーで、第2回以降はアームストロングとなっています。北海道側の派遣・受入は各地にまたがり、札幌、千歳、伊達、八雲、岩見沢、旭川など、複数の市町村が関係したことが特記されます。

北海道サーモン協会主催の交流事業

2006年度（2007年3月）から交流の繋がりのあるカナダBC州第83学校区（アームストロング周辺）との相互交流が再開されました。アームストロング側からの力強い支援や札幌市教育委員会、北方圏センター（現北海道国際交流・協力総合センター）、北海道CGC

「みどりとこころの基金」などの後援・助成があり実現できました。協会がボランティア組織であり、可能な範囲での事業実施に集中したことから、北海道側の参加校は札幌市内の小中学校に限定しました。

2015年度までに派遣が5回、受入が5回実施されました。（概要別記）

また、2009年に交流事業参加者とその家族による「サーモン協会家族の会」が設立され、力強いバックアップ体制ができたことは事業の成功に大きく貢献しました。



交流事業の特色

団員の募集に際し参加条件としたのは、①英語学習及びカナダへの関心があり責任を持って積極的に国際交流に参加する強い意欲があること、②10月にはカナダ側からホストとなった児童生徒が来札することになっておりその際、今回の参加者の家庭で2～3日のホームステイを引き受けられること、でした。

当協会の交流事業の特色の一つは、北海道とカナダの間の相互訪問交流です。このことにより、団員相互の親密さが倍増されます。もう一つはホームステイを活用していることです。これによりお互いの異文化理解が深められ、日加の家庭間の交流も期待され国際理解が促進されます。

また、研修の中にサケ学習が目標になっていることも挙げられます。カナダBC州北部は自然が豊かでサケの遡上が有名であり、北海道の生徒にとって学ぶべき点が多いのです。

また、カナダの生徒にとって北海道の地形や自然環境とその特長を生かしたサケ増殖の現状が勉強になりました。

2 事業の内容

（1）北海道から派遣

回数	派遣期間	派遣人数	参加校	備考
1	2007.3.24～3.31	小学生 12	大倉山小(4)、山の手南小、平岡小、新陵東小(2)、中央小、東園小、清田南小、あやめ野小	
2	2009.3.26～4.3	中学生 5 小学生 11	宮の森中、北辰中、新陵中、真駒内曙中、向陵中、大倉山小(7)、新陵東小(2)、東園小、信濃小	応募者が多く16名を派遣
3	2011.3.26～4.3	中学生 5 小学生 7	宮の森中、北陽中(2)、福移中、北辰中、大倉山小(4)、栄縁小、月寒東小、北野台小	
4	2013.3.26～4.3	中学生 8 小学生 4	宮の森中(5)、羊丘中、澄川中、北野台中、大倉山小(3)、信濃小	
5	2015.3.26～4.3	中学生 7 小学生 5	白石中(2)、宮の森中(2)、栄中、羊丘中、あやめ野中、大倉山小(2)、真駒内公園小(2)、月寒東小	
計	—	62名	小学校 延べ21校 中学校 延べ18校	

*引率者 高橋壽一（サーモン協会事務局長）2007～2015
西田准子（小学校教諭）2007、橋本フミエ（元小中学校校長）2009
野崎敦子（サーモン協会運営委員）2011、松川多美子（サーモン協会運営委員）2015
有賀 望（サーモン協会運営委員・豊平川さけ科学館学芸員）2013

*助成金（補助金）提供

国際交流基金 2007.09.11

北方圏センター（現北海道国際交流・協力総合センター）交流基金、2007～15

秋山記念生命科学振興財団 2007

北海道CGC「みどりとこころの基金」2011.13.15

*研修日程（概要） アームストロング（以下の活動が選択的に実施されました）

- ・カナダの日常生活体験（ホームステイ）
- ・キングフィッシャー環境センター見学・体験（サケ稚魚管理実習、サケの解剖、河川見学、植樹、先住民生活、バーベキューなど）
- ・先住民手工芸体験　　・中等学校見学　　・市長訪問　　・商工会訪問
- ・消防署訪問　　・警察署訪問　　・産業見学（乳製品工場、木材工場、マツ種苗工場）
- ・スポーツレクリエーション（カーリング、スキー、ホッケー、バスケットボール、壁登り、アーチェリー）
- ・カナダの都市見学（バンクーバー）



レクリエーションですっかり打ち解けた



雄大な自然に囲まれて研修する生徒たち

(2) 北海道で受入

- ・カナダでホームステイを受け入れた生徒が北海道を訪問、相互交流をさらに深めました。
- ・2007年～2015年まで隔年で5回受け入れました。後援はBC州第83学校区教育委員会で、各回12名の小中学生（ミドルスクール生徒）が参加しました。
- ・北海道からの研修団派遣実施後、同年の10月にカナダからの研修団を受け入れました。しかし、2009年10月の来道は両地域でのインフルエンザ蔓延により翌10年5月に延期となりました。
- ・各回3名の教員等が引率しました。（職名は訪問時）

リア・スミス（Ms. Rea Smith）（元小学校教諭）2007, 11, 13に引率

ダイアナ・ヘイウッドファーマ（Ms. Diana Haywood-Farmer）（レンウッド中等学校教諭）2007, 10, 11, 13

リード・フィンレイ（Mr. Reid Finley）（レンウッド中等学校校長）2007, 10

グレン・ボーシスル（Mr. Glenn Borthistle）（教育委員会部長）2011

アイヴァン・タグチ（Mr. Ivan Taguchi）（レンウッド中等学校講師）2010

ゴードン・リッチャー（Mr. Gordon Ritchie）（レンウッド中等学校副校長）2013

ジュディ・ヴァンダミア（Ms. Judi van der Meer）（ハイランドパーク小学校校長）2015

ヒアポ・ポイリア（Mr. Hiapo Poirier）（レンウッド中等学校教諭）2015

リサ・ボウア（Ms. Lisa Boer）（レンウッド中等学校教諭）2015

*助成金（補助金）提供

北方圏センター（現北海道国際交流・協力総合センター）交流基金 2007～15

*研修日程（概要） 札幌、千歳など（以下の活動が選択的に実施されました）

- ・日本の日常生活体験（ホームステイ）
- ・小中学校訪問（大倉山小学校、東白石小学校、宮の森中学校、陵北中学校、千歳市立末広小学校）
- ・豊平川さけ科学館（サケの生態の学習、採卵実習など）
- ・千歳水族館（水槽見学、サケ皮の靴製作実習、インディアン水車、アイヌのサケ漁法見学、など）
- ・札幌市長訪問　　・市内観光スポット見学（時計台、赤れんが、大通り、テレビ塔、地下歩行街など）
- ・円山動物園、市民防災センター、大倉山ミュージアム、青少年科学館、北海道神宮など見学
- ・芸術の森工芸講習会参加（絞り染め、七宝焼き体験）
- ・地下鉄、JR乗車体験
- ・一行は帰路東京に1泊し大都市の生活振りを体験しました。

*受賞

北方圏センター創立30周年式典の中で北海道サーモン協会は国際交流を積極的に進めたことで貢献賞を受賞しました。



習字は初体験



おそるおそる採卵実習



札幌の地下鉄はスマーズ

カナダ研修団員からのコメント（2010年5月）

- ・ホストファミリーが家族の一員として温かく迎え入れてくれ、得難い体験をすることができた。
- ・学校での在校時間、家庭学習時間の長さに驚いた。一日一杯滞在して日本の学校生活についてもっと学びたい。
- ・千歳サケのふるさと館での体験は楽しかった。ボランティアの皆さんの歓迎や靴づくり、伝統芸能などを体験できよかったです。
- ・全体の日程がよくできており、運営がよかったです。
- ・進んだ公共の乗り物に乗れて、よかったです。
- ・父母と長い間離れて生活し、自分で物事を決める必要があり、よい経験となった。
- ・課題として、時差調整の時間（休息）がほしかった。疲れた。
- ・動物園では動物がおりの中に入れられ、かわいそうだった。
- ・陵北中学校での話題「カナダに無くて印象に残ったもの」：プリクラ、洗浄付きトイレ、道路にゴミが落ちていないこと、学校で掃除当番があること、制服があること、自販機がどこにでもあること、日本の庭が狭いこと、ペットを飼う家が少ないとこと。



Brooks, Smith両先生と



Kim Fulton先生は環境保護に力



"Are you ready?" "Y-yes!"



カナダのHome Stayの様子



持ち寄りのポットラック・パーティは人気がある

受入家庭からの声（2010年5月）

- ・英語でのコミュニケーションがうまくとれなかった。これを機に英語を勉強し直そうと思った。
- ・子どもたちのコミュニケーション能力が素敵に思えた。
- ・サーモン協会の国際交流事業はすばらしい。ずっと続けてほしい。
- ・カナダの子どもたちは身体は大きいが素直。2人息子が増えた。
- ・あまりなじみのないカナダに関心を持て、世界が広がった。
- ・今回受け入れてみて、改めてカナダでお世話をしてくれた家庭に感謝の気持ちを持つた。

交流を振り返る

広がれ！若者に残した遺産

リア・スミス

＜スミスさんは元小学校教諭で、地元ではボランティア活動で大変有名です。1988年に地域の「年間ボランティア最高賞（Volunteer of the Year）」を受賞しています。生徒の統率では秀でた力を発揮していましたが、その目は常に若者の将来を見据えた優しさに満ちていました。「サケ友の会」時代から研修団の引率者として携わり、数度にわたり来道しました。以下はスミス先生からの寄稿です＞

北海道サーモン協会の皆様

今頃はアームストロングからの研修団員が美しいまち札幌に到着し皆様に迎えられていることでしょう。今回も団員たちは準備いただいた活動を待ちにしておりました。彼らが良き「大使」となってこの交流事業のため、両市のため、そして両国のために尽くしてくれるよう念じています。

今回、私はこの研修団に参加して皆さんにお別れを言うことができず残念ですが、私は他の人にもこの交流事業を経験してもらうのが良いだろうと考えました。気持ちだけは一緒に参加しておりますのでご理解ください。新たに3人の先生たちはきっと有意義な時間を過ごすものと確信しております。

アームストロングに秋が来ますと、私は何時も北海道のことを思い出します。秋の多彩な色、落葉の香り、サケの飛び跳ねる音、そして多くの収穫が私の心中で二つのまちを結びつけてくれます。これまでの人生の中で皆さんにお会いできたことは何と幸運だったことでしょう。

キム・フルトンさんやニール・ブルックスさんも皆さんとの交流を懐かしんでおります。ご尽力いただいたこの事業を通して、参加した多くの子どもたちと、サケやその環境の重要さについて知識を分かち合えたことを喜んでおります。これまでの参加者を合計すると264名に上るようです。私たちは環境保全の責任を研修団員の世代へバトンタッチするわけですが、この交流事業の遺産が今後たくさんの実をつけていくよう願ってやみません。

皆様のご健康とご家族、友人の皆様のご多幸をお祈りいたします。皆様が青少年に対し重要な仕事をされたことを誇りに思ってください。私にとって皆様とビジョンと任務を分かち合うことができましたことは誠に光栄なことでした。

2015.10

アームストロングから

リア・スミス

カナダの人々は温かかった——BC州訪問研修 無事終了（2015年10月）

年明けとともに事前セミナーを5回計画しましたが、研修団の中に中学3年生が4名いたため、3月初めの受験後、毎週土曜日に集中的にセミナーを実施し、何とか3月26日の出発に間に合わせました。団員にとってはかなり厳しかったのではないかと思います。

セミナーでは前回参加した団員を招いて経験談を語ってもらいましたが、とても効果的だったと思います。お陰でパスポートを紛失するなどという重大事件は起きました。

また、カナダ側との連絡の中で大きな課題だったのは、ペットアレルギーの団員が3名いたことです。提示されたホームステイ先はどの家も犬や猫、馬、ニワトリなどを飼っていて、これには頭を抱えました。しかし、ホスト側には室内清掃を徹底するとか、キャンピングカーを準備するとか、たいへんなご配慮をいただき、症状が出た団員がいなかつた

ことは本当にありがとうございました。

団員の中には多少ホームシックにかかった人もいましたが、国際電話をかけるなどホストファミリーのご配意により何とか乗り越えることができたようです。

何にも増して、団員たちがあらゆる活動に積極的に参加していた姿が大変印象的でした。

私は事前セミナーの場で「英語で言いたいことがいかに言えないか、体験しておいで」と申し上げました。なぜなら、そのことによって団員のモチベーションが上がり将来の英語学習への取り組み方が全く違うものになると信じているからです。

団員たちは10月のパートナー達との再会を待ち焦がれていることでしょう。(高橋 壽一)

参加者名簿 (学年は派遣時)

2007

神 弘安 (大倉山小6)	山本 尚輝 (山の手南小6)	山脇 寛登 (大倉山小5)	小林 賢弥 (平岡小5)
小松 広和 (新陵東小5)	マンビ・モンゴメリ (中央小5)	齋藤 恵 (東園小6)	中川 玲奈 (清田南小6)
山本 華代 (新陵東小6)	野村 茉由 (大倉山小5)	馬場理恵子 (大倉山小5)	松本 有衣 (あやめ野小5)
2009			
大滝 左豊 (北辰中2)	山本 竜大 (新陵東小6)	荒木 幸太 (大倉山小6)	山脇 悠世 (大倉山小5)
山本 華代 (新陵中2)	伊藤 優花 (真駒内曙中2)	寺町 六花 (向陵中2)	馬場理恵子 (宮の森中1)
齋藤 梓 (東園小6)	青木 ゆり (信濃小6)	野村 香奈 (大倉山小5)	小松 加歩 (新陵東小5)
鳥山 美月 (大倉山小5)	荒井日向子 (大倉山小5)	後藤 歩美 (大倉山小5)	石橋 杏奈 (大倉山小5)

2011

登内 優一 (北陽中2)	伊東 佳昭 (栄緑小6)	森田 杜 (大倉山小6)	岸本 快 (大倉山小6)
青山 広夢 (月寒東小5)	上野 斗夢 (北野台小5)	佐藤 真衣 (福移中1)	登内 彩香 (北陽中1)
高田 侑美 (宮の森中1)	大滝 遊楽 (北辰中1)	林 奈緒 (大倉山小6)	藤本有美香 (大倉山小6)
2013			
青木 拓郎 (信濃小6)	後藤 康太 (大倉山小6)	野村 泰雅 (大倉山小5)	柴田 礼王 (大倉山小5)
武田 杏香 (澄川中1)	浦城 由羽 (羊丘中1)	樋口万里子 (宮の森中1)	加谷野乃実 (宮の森中1)
河端 志織 (宮の森中1)	高田 京美 (宮の森中1)	清水 萌葉 (北野台中1)	牧野 純鈴 (宮の森中1)
2015			
井川 亜美 (白石中3)	川尻絵理花 (羊丘中3)	宮崎いるみ (白石中3)	松川 有彩 (あやめ野中3)
徳永 暖華 (真駒内公園小5)	樋口 桃子 (宮の森中1)	石崎 莉菜 (宮の森中1)	速水ゆりか (大倉山小6)
大屋 沙緒 (真駒内公園小6)	柴田 礼歩 (大倉山小5)	伊東 哲臣 (栄中1)	青山 玲央 (月寒東小6)

2007

David Severson (8年)	Levi Verlan (8年)	Conor Payne (7年)	Brenden Nichols (7年)
Skylar Felix-Honeyman (8年)	Cody Clyburn (8年)	Mitchell Gunning (7年)	Tyler Kopp (7年)
Cheyenne Niklaisen (8年)	Paige Weston (7年)	Hailey Beck (7年)	Kailey Rowe (7年)

2010

Wesley Buchanan (9年)	Darryl Fidler (7年)	Avery Fried (9年)	Broyden Myers (9年)
Kelly Strohm (9年)	Samantha Cook (9年)	Sarah Smedley (9年)	Brittany Bernard (8年)
Kassandra Hutter (7年)	Brenna Beck (7年)	Danika Seed (7年)	Julia Dean (7年)
Ashley Kirschner (7年)	Paige Beckett (7年)		

2011

Jake Hill-Lonergan (8年)	Brayden Wiebe (9年)	Cody Kruger (8年)	Noah Dorsey (7年)
Keira Millin (9年)	Emily Gunning (8年)	Heather Harward (8年)	Ali Hutter (8年)
Sarah Agassiz (8年)	Eva Strohm (8年)	Aspen Hansma (7年)	Demitria Kontos (8年)

2013

Brittany Hill-Lonergan (8年)	Jessica Kruger (8年)	Joshua Pringle (7年)	Jared Jameson (7年)
Jennifer Blake (8年)	Brianna Van Eeden (8年)	Courtney Graves (9年)	Emma Smedley (9年)
Hallie Barker (8年)	Mairyn Tucker (9年)	Jaden Corrigan (8年)	Trinity Hansma (8年)

2015

Hunter Colby Housego (8年)	Michael Lapp (8年)	Kyra Kilfoyle (8年)	Johanna Dueck (7年)
Amy Krebbers (7年)	Deni Corrigan (7年)	Olivia Pickering (7年)	Natalie Fillion (7年)
Payton Hansma (7年)	Averi Gill (7年)	Tanner Lapp (6年)	Max Turnbull (6年)

サーモンロードふれあいツアー

会員交流をかねて、サケのそ上河川を訪ね「サケが上る川」を観察・検証。帰路はサケ料理や温泉入浴、車中では懸賞付きサケクイズを楽しみながら交流を深めました。

浜益川

⟨ '05. 10. 2 ⟩

第一回は「HTB人気の遠藤アナウンサーとの旅」と銘打ったためか、どれだけ参加するかの心配をよそに定員満席。到着した浜益川はサケが群がってそ上中。遠藤アナのサービス心に応えるように、絶好の見学日和となりました。昼食は特製海鮮丼、露天温泉を満喫。帰路には樹齢1500年のご神木に願いを託してきました。



余市川

⟨ '06. 10. 29 ⟩

見学予定日を前にして台風並みの低気圧警報。サケのそ上はすっかり姿を消した…との情報に、大慌ての担当委員が前日現地の様子を見に行くと川を上るサケの群れ…。そんな薄氷の思いも知らずに、現地に着いた一行は「いるいる」と大はしゃぎ。解散間際で聞こえた「楽しかったよ」の声に担当委員の疲れは吹き飛んだことでしょう。



暑寒別川 (増毛町)

⟨ '07. 10. 14 ⟩

雨の予報の中を出発。現地に着くと幸い雨は止んだのですが、思ったほどサケの姿が見えずがっかり。急遽役場の方の手配で、採卵場の見学となり「来て良かったね」の声。豪華な食事の後は国稀酒造見学。嬉しい試飲にメーターも上がり気味。「これまで雨も魚が少ないのも帳消しー！」



十勝川

⟨ '08. 10. 11 ⟩

札幌 8：00発、180キロ、最大のサケの殿堂「十勝川」への旅。今回は年1回の会議もかねての計画でした。到着した午後のサケ見学はお預け。役員は会議へ、他の方は観光へ。温泉旅館でくつろいだ2日目は、地元のサケ公園で行われたサケ祭りに参加。その後いよいよ壮大な十勝川のサケを見学しました。その勇壮な光景に「さすが十勝川！」の声。

美人の湯・モール温泉入浴、鹿肉とワインの堪能、巨大花時計の見学など、長旅の疲れを忘れさせる楽しい旅でした。



支笏湖、千歳川

⟨ '09. 10. 29 ⟩

近場のツアーにもかかわらず、満員御礼の参加。ヒメマスの棲む雄大な支笏湖を後に、魚のサンクチュアリーといわれる千歳川のサクラマス産卵保護地を訪れ、その後日本最初のふ化場建設の地、千歳のふ化場へ。そこでは職員の計らいで野外チャンチャン焼きが用意されていて、参加者は大喜び。ご厚意の暖かい思いを背に、川を下り、日本で唯一のサケ捕獲水車を見学した後、窓から川を上るサケが見える「サケのふるさと館」を訪問。サケの知識盛りだくさんになった参加者を乗せて、バスは帰路につきました。



ウヨロ川 (白老町)

⟨ '10. 10. 27 ⟩

胆振屈指のサケそ上河川といわれるウヨロ川。期待をあざ笑うように札幌は前日から大雪。思案の決断で気分の晴れない出発強行。ところが、札幌を出ると見る見る晴れ渡った秋空に変身。まさにサーモンロード祝福の1日になりました。川に着くと評判通りのサケの群れ。小型河川で、目の前を上るサケに一同大満足。昼のご馳走も、帰りの温泉も、全てが満足の1日でした。



余別川、積丹川 (積丹半島)

⟨ '11. 10. 10 ⟩

「豊かな海を育む源は森」との観点で、美しい森づくりプロジェクトや森林保全活動の協定締結など、自然保護と再生活動を盛んに行っている地域です。今回は川も小さく雨模様のこともあり、サケの遡上を見ることは出来ませんでしたが、積丹町のコミニティーセンターで指導員の講演を聞き、サケを通して自然保護のあり方を勉強しました。



日高幌別川

⟨ '12. 10. 20 ⟩

えりも岬に近い幌別川への旅。浦河町から更に山を目指すとふ化場がありました。そのふ化場へ誘導されるサケを観察しながら、ふ化場の施設や作業について勉強しました。昼も過ぎ、ありついた昼飯はこの地方で捕れた高級魚類や地場産の野菜やキノコ。美食を堪能した帰り道には日高の駿馬を訪問、そして「みついし昆布温泉」でのんびりと・・。長旅を忘れて楽しみました。



ウヨロ川、白老川

⟨ '13. 10. 14 ⟩

‘10年に訪問した感動の川をもう一度見たいと再計画。期待に違わず、今回もサケの遡上を見ることが出来ました。懸命に流れを上るサケの群れは、再度の訪問にもかかわらず感動です。恒例の温泉は豊浦の「しおさい」。窓から海を見渡してのくつろぎでした。ただ、帰路、中山峠からの大渋滞で予定が遅くなりましたが、これも楽しい思い出となりました。



⟨ '10. 10. 29 ⟩

ワークショップ 『鮭をめぐる食の安全と安心』

…パネリスト：・札幌消費者協会 ・北海道ぎょれん ・標津漁協 ・札幌中央水産㈱
・佐藤水産㈱

コーディネーター：浦野 明央 氏

普段はあまり聞かれない異分野の話題に、それぞれの熱心な説明に聞き入りました。

〈話題抽出〉

・(養殖サケについて)嗜好、価額で買ってしまう。魚に安全・エコラベルが付くと良いが(消費者協会)・国内消費の62%が輸入サケ。課題は、国際基準M S Cの取得。安全安心の北海道ブランド規準の設定(ぎょれん)・安心安全度が保証される国際基準H A C C Pの取得を進めている(標津漁協)・流通過程で、水産資源を守る国際認証I S Oを取得した。そのための資金、社員意識の改革が必要。子ども達にもっと魚をと魚食委員会を設置。(札幌中央水産㈱)・天然物にこだわった商品。日本で初の認可を受けた1次加工から5次加工〈レストラン〉のサーモンファクトリーを建て、今後も食育を進める。(佐藤水産)

⟨ '11. 11. 5 ⟩

講演 『野生のサケ・その魅力を探る』

.....野生サケ研究所 小宮山 英重 氏

北海道に住んで42年間、サケの行動を追いかけてきた魅力は①群れをなす光景②海から山へ栄養を運ぶ生態③個性的な繁殖行動。と映像を交えたお話。さらには、サケの産卵場について、川底の砂利の堆積の仕方や川の蛇行の工夫が必要で、今産卵している忠別川の状況は理想からほど遠い、などの指摘がありました。

シンポジウム 『石狩川・野生のサケ回復の課題』

…パネリスト：・北海道サーモン協会 ・水産研究センター ・旭川市博物科学館
・豊平川さけ科学館 ・道林業試験場

コーディネーター：大雪と石狩の自然を守る会

〈話題抽出〉

・成功のバロメーターは2世、3世以降の回帰。
10～15年の観察を根気よく。
・河畔林の役割についての説明
・忠別川の産卵状況の報告



⟨ '12. 11. 3 ⟩

講演 『三陸のサケ：震災前の状況－大槌を中心』

.....北海道大学 浦野 明央 氏

岩手県大槌川の調査結果では、冷たい水を好むサケの回帰行動は、海水温の影響を強く受け、水温が高いと魚がストレスを受け、卵や精子が熟し過ぎることがある。



講演 『三陸のサケ：その現状と課題』

.....岩手大学 阿部 周一 氏

最大17mの津波を受けた跡が生々しく残る。石巻漁港や宮古漁港は地盤沈下で高潮時には冠水する。漁港や加工場、ライフライン復旧遅れ、人口の流出が心配。若者が戻らず、水産全体の復興が牽引出来ない。

講演 『三陸サケふ化放流事業に向けた取り組み』

.....北海道区水産研究所 石黒 武彦 氏

被害状況調査を行い、ふ化放流復興のため、立案、施設統合、補助事業の活用などを助言。27孵化場の内20が被害。復旧は進んでいる。ただ、用水に海水が混入するところもあるなど今後の課題がある。

⟨ '13. 11. 2 ⟩

講演 『生物多様性がささえる森・川・海のつながり』

.....環境生態系保全技術指導員 河村 博 氏

森では落ち葉が地表で分解、その栄養は地下水に浸透して河川水となって海に注ぐ。サケマスは、海の栄養を再び山へ運ぶ役割を担う。このように多様な生き物の多様な繋がりで森、川、海の働きが保たれている。



産卵床観察と河畔清掃

'06年から毎年、豊平川のサケのそ上・産卵状況を観察した後、河畔の清掃を行いました。



もう汚しちゃあいかんよ！

('06. 10. 14)



('08. 10. 25)

('12. 10. 8)

孤独に耐えて黙々と…

サケが見えるー！



こんなにもゴミが

('08. 10. 25)



サーモン協会特製「塩イクラサンドイッチ」で一休み…うまい！

('06. 10. 14)



「これはオスで4年魚かな…」

('09. 10. 17)



「これはオスです。メスとの違いは…」

('10. 10. 11)



「もともと扇状地に拓かれた札幌はサケの産卵地帯。それが都市化で失われ、戦後の人団急増で豊平川はドブ川。オリンピックを機に汚濁対策が進み、カムバックサーモン運動で、再びサケが豊平川に」

('06. 10. 14)



強風にもめげず厚着で頑張りました。でも一人だけ…？

('14. 10. 11)



青空の下、ピンクのユニフォームが輝く

('11. 10. 19)

夏休み親子サケ教室

'07年から毎年、保護者同伴の小学生を対象に、会場は札幌中央卸売市場で「この夏君はサケ博士」をキャッチフレーズにサケ学習を行いました。

午前中は、市場見学やサケの重さあてクイズの後、サケの解剖見学、サケの料理実習を通して命を頂く尊さ、大切さを学びました。午後は、サケゲームなどの企画で親しみ、楽しみながらサケを学びました。



見学の前に市場の役割についてのお話しに子ども達は真剣
('08. 7. 31)



「ああ、おなかすいたあ」サケ料理実習のご馳走が待ち遠しい。講師はテレビで人気の星澤幸子さん
('08. 7. 31)



「重さは何キロ?」初めてサケに手で触れ、子ども達は興味津々。この後始まった解剖に子供らの目はランラン
('08. 7. 31)



展示の資料はお母さんと一緒に学びました
('08. 7. 31)



漫画家のかじさやかさんから、サケの描き方を教わりました
('12. 8. 6)



自作の紙芝居「札幌のサケと水辺の生き物」で、サケの一生を勉強しました
('12. 8. 6)

サケフェスタ

札幌市豊平川さけ科学館主催のイベントに協賛参加し、いろいろな催しを行いました。



「イクラ」といえば醤油漬け。だが、本来は「塩漬け」なのに、今では殆どお目にかかるない。だがパンで食べるなら、なんたって抜群の相性
('09. 8. 23)



発泡スチロールでサケの置物作り。「ホラ、ナイフはこう使って」指導の先生も目が離せない
('10. 9. 20)



「発泡スチロールはこの角を削るとサケらしくなるよ」熱血指導が続く
('11. 9. 19)



人気の「ミニ・サーモン釣り大会」時には予約制になるほど。金賞、銀賞を手にして大喜び
('13. 9. 23)



「墨が散らないように、静かにこうして」プロの魚拓先生に子ども達も真剣
('14. 9. 23)



サケを持ち上げて「重量あてクイズ」に挑戦する子ども達。優勝者は正解の3.15kgをずばり当てた
('13. 9. 23)

会員交流会

会員の交流の集いを毎年暮れに行い、にわか編成のサーモン合唱隊の演奏やゲーム大会などで親睦を深めました。また、寄付金集めのオークションは、笑いのうちに盛り上がり、ささやかなりとも会の財政に寄与しました。



即製サーモンメンソールコール。まずは「乾杯の歌」から ('08.12.12)



年1回の会員交流会、日頃の活動の疲れも忘れて、大いに楽しみました ('06.11.7)



名司会で時間と共にヒートアップ。売上金は会財政に貢献しました ('07.12.6)



会員持ち寄りの豪華商品の数々 ('08.12.12)



bingoゲームの景品を真剣に選ぶ会員 ('06.11.17)



創作の双六に童心に返り一喜一憂 ('12.12.7)

トピック

サケ稚魚の放流

豊平川さけ科学館が行うサケ放流イベントに毎年協賛し、子どもたちのサケ放流のお手伝いをしました。

塩イクラ製造講習

本来のイクラは塩イクラ。北洋漁業盛んな時代にはイクラの技術者が優遇されたため、その技術は門外不出。その名残りか、レシピは今も巷で見られません。しかし「イクラはやっぱり塩」との愛好者もあり、パン食には抜群の相性です。講習会を行いその普及を図りました。

<塩イクラのレシピ>

準備

塩水A（35%食塩水：漬け用） 4リットル
塩水B（1%食塩水：洗浄用） 2リットル
イクラ（1～2腹分）をほぐしザルに置く。（真水に浸けない）

作り方

- ① イクラに、塩水B 1リットルをかけ洗浄する。
- ② イクラを塩水Aに入れよくかき混ぜる。（漬け時間：パン食用5分、ご飯用7分）
- ③ ザルにとり食塩水B 1リットルをかけ流す。（そのまま冷所に2時間程度おく）
- ④ （卵表面が乾いたら）オリーブ油でコーティング（表面がぬれる程度）、冷蔵庫に入れ2日目ぐらいから食べ頃

市販サケ、オンパレード

毎年開かれた市民講座では、丸水中央水産、佐藤水産、中央卸売市場水産協議会などのご協力を得て、マーケットに並ぶ全てのサケマス展示を行いました。それを前に「おいしいサケ、安全安心のサケ」の説明があり、受講者は「見た目とは一致しない安全・安心サケの選び方」に大きな関心を示しました。

「魚拓ならお任せ」

スタッフの魚拓のプロがイベントで活躍しました。わかりやすい説明で、普段経験することのない魚拓実習に、子どもたちの目が輝いていました。

「サケの英語ならお任せ」

スタッフには、いろいろなプロが活躍しました。その一人は著名な英語通訳者で、国際サケ学習での活躍や海外事情の解説は勿論、一般用語としてはあまり馴染まれていない水産や魚に関する用語の解説・普及にも貢献しました。

英語でサケを知ろう！



サケの消化器官のお話し

今回は少し面倒くさい話になる。

カナダ研修で訪れた環境センターで、ブルックス館長が小中学生を前にサケの解剖をした。ウロコ、エラ、心臓と続き、消化器に移った。

「消化は胃ではなく、パイロリック・スイーカムで行われる」と言う。聞いたことのない単語だ。札幌に帰ってからカナダの小学校用の副読本を開き、必死にこの単語の綴りと意味を探した。あった！ pyloric cecumと書いてある。ウェブサイトで魚の解剖を調べ、大きな辞書で確認したが、専門語で「幽門垂（ゆうもんすい）」と言うらしい。

綴りを見て、パイロリックはピロリ菌のピロリと関係があるな、と思った。

カナダの副読本の教師用解説文にはこう書かれている。

The pyloric ceca act like our small intestine, in that they exclude the digestive juices needed to break down the food, and absorb the components into the blood stream which passes it on to the liver. <ceca（スイーカ）はcecumの複数形>

つまり、人間の小腸に相当し、消化液を出して食物を碎き、栄養分を吸収し、血管を通して肝臓に送る、ということだ。

しかし、こんな難しい単語を現地小学生に対し使うとは驚きだった。

*

環境センターでの話題をもう一つ。

森に囲まれたセンター入口に看板が立てられている。

“Visitors Welcome!

Take only memories…Leave only footprints.”

これはしゃれた言い方だ。「持ち帰るのは思い出だけ（動植物はダメ）、残すのは足跡だけ（ゴミはダメ）」ということだ。

英語の看板にはこういうセンスにあふれたものが多い。見習いたいものだ。

(高橋壽一 助言／木村義一代表)

「漫画家かじさやかさんの応援」

漫画家かじさやかさんは、水産学部を卒業され、大学でも教鞭をとる「魚の専門家」。父上も魚の専門家で「カムバックサーモン運動」の立役者。このご縁もあって、当会への深いご理解をいただき、子ども達へのサケ講座、サケの絵描き指導などを始め、キャラクターの制作、紙芝居の提案など多様なご協力を頂きました。



「北海道サケネットワーク事務局」

北海道サケネットワークは「サケ」をキーワードに漁業、流通、市民運動、教育、研究者などに当会が呼びかけて'06年に発足しました。以来、当会が事務局を担当し、総会時には当会の「サケ会議」も共催として開催しました。

「石狩川野生サケ創出事業を後援」

戦後の河川汚濁で消滅した石狩川本流の野生サケを復活しようとのプロジェクトが、水産研究所の計画で行われました。サケ保護事業として野生の重要性が見直される時代になったからです。石狩川の野生サケ復活は、その産卵地帯となっている旭川の「石狩と大雪の自然を守る会」(旭川)が長い間望んできたことで、卵の入手困難な時代から稚魚の放流を細々と長年続けていました。このプロジェクトの実施に当たって趣旨に賛同する当会も後援者に名を連ねて応援しました。

「サケを『北海道の魚』に」

北海道にはシンボルの樹（エゾマツ）花（ハマナス）鳥（タンチョウ）がありますが魚はありません。当会では、食材としても、教材としてもすばらしいサケを「道のシンボルの魚に」の運動をしましたが、行政では業界も含めた要請でなければ指定は困難、とのことで簡単にいきませんでした。といいますのは、業界筋から聞えたこんな声があるからです。「サケがどんなにいい魚か知らネエけど、ホタテの方が産額は上だよ」。

「豊平川『野生サケ』に声援」

環境悪化で途絶えたサケが「カムバックサーモン運動」で人工ふ化の稚魚を放し、再び蘇った豊平川のサケですが、調査の結果、天然産卵による再生産が増えていることが判明、自然の生態系を復活させるため、天然産卵群を中心に人工ふ化の放流をコントロールしようとの運動を掲げて S W S P (Sapporo Wild Salmon Project) が発足しました。当会でも、自然の生態系によるサケ保護は賛成で、同会の活躍に声援を送りました。

「道内サケ水族館への声援」

サケは命の大切さ、自然保護、自然と生物の関わりなどについて子どもたちに理解させれる優れた教材です。当会は青少年への活動を重視しましたが、校外でも余裕が無くなったり子どもたちの実態から、残念ながら十分な活動が出来ませんでした。その補いのために会報には道内サケ水族館の活動、催し紹介などを行いました。

「『私とサケ』を収録」

サケは、多くの人に親しまれる魚です。特に、北海道人にはいろいろな思いがあります。会報にはその思い出を投稿頂きました。そんな中から、たとえば、こんな声がありました。〈投稿文を要約〉

(森 一男氏)

ライオンズクラブで、子ども達に、麻薬防止やサケの話をしています。サケについてはその生態を話し「サケは必ず故郷へ帰る。君たちもサケに負けぬよう故郷を愛し、親への感謝の思いを忘れないように」と話しています。

(野村聰恵氏)

子どもの頃からサケを食べていました。自分が母親になって、スーパーに並ぶピンクのきれいなサケ（養殖サケ）を好むようになりました。サーモン協会で養殖サケの実態と、天然サケのすばらしさを知り、今では家族みんなが天然の秋サケが大好きになりました。

(山道正克氏)

子どもの頃から釣りが好きで、やがて、釣り雑誌の仕事にも就き、漁業などの会議にも関わるようになりました。釣り人にとって、漁業規制の強化から釣り規制が強まることは「釣りは国民的レジャーであり、文化である」との立場から反対していましたが、釣り人

のマナー違反の多いことや、魚類保護のおこぼれを頂戴している事も事実です。これからは、環境保護も含めた魚類保護について、釣り人も積極的に取り組まなければなりません。

(前鼻昌司氏)

子どもの頃は魚が嫌いでした。骨が刺さるからです。そんな中で、唯一、サケは「骨の刺さらない魚」でした。大人になってサケに関わり、サケを知るようになって魚大好き人間になりました。米作以前の日本人の主食はサケでした。アイヌが「神の魚」と崇めていましたが、無神論者の私も、サケは「神の恵み」であるようにさえ思います。協会の事業を通じカナダに友人も出来ました。大切なサケが日本では人工ふ化事業によって守られていることに批判もあります。天然保護に任せるべきか、人工ふ化で保護すべきか難しい問題です。今後ともサケを通じて人間そのものについて考えていきたいと思います。

(高畠一夫氏)

私の職場H T Bに、ニュースキャスターでカムバックサーモンの仕掛け人の一人、そして初めてサケが姿を見せた豊平川の河畔から「サケが帰ってきました。これは夢ではありません、現実です！」と絶叫中継した菅原安信氏がいました。彼がいなければ、私にとってはサケは「食卓の塩引き」に過ぎず、この「私とサケ」への投稿はなかったでしょう。

カムバックサーモン運動には、H T Bも全社をあげて積極的に取り組んでいました。数々の番組やイベントを持ち、シリーズの集大成として「サケ帰る日」を全国ネットし、メッセージソング「L o n g W a y」も誕生しました。

その後、菅原さんはカナダに移住し暮らしておりましたが、今春、他界の報を受けました。「私とサケ」に菅原さんとの思い出を載せ、哀悼の意を捧げます。

(小松久美子氏)

木村代表の本を読んでサケが栄養バランスに優れた魚であることを知り、食卓でサケ料理を楽しんでいます。親子サケ教室や市民講座で教わったサケの揚げ団子やメープルシロップを使ったサケ料理など、レシピが広がりました。

(齊藤宣丈氏)

私の趣味は魚拓とサケ・マスの釣りですが、サーモン協会のサケに対する考え方や取り組み方に共感して協会の活動に参加しています。私を紹介して下さったいまは亡き千葉孝さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

北海道サーモン協会 会則

(平成18. 4 制定)

(名称・所在地)

第1条 この会は「北海道サーモン協会」と称し、事務局を札幌市豊平川さけ科学館内（札幌市南区真駒内公園）に置く。
2 英文の会名は、Hokkaido Salmon Societyとする。

(目的)

第2条 この会は、サケの生態系の回復や河川環境の保全を通じ、地球環境に対する意識の高揚を図るとともにサケに関わる生活文化の調査・研究、情報・啓発活動を行うほか、青少年がこれらについての理解及び情操を養うための地域活動や国際交流に対し支援することを目的とする。

(事業)

第3条 この会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
(1) 公開市民講座開催など情報・普及活動
(2) 青少年のサケ学習への支援
(3) サケ国際交流事業の企画・実施
(4) サケに関する会議の開催など全道ネットワークづくり
(5) 関連団体・機関との連携
(6) 会報の定期的発行
(7) その他必要と認める事業

(会員)

第4条 会員は、この会の目的および事業に賛同する法人・団体および個人をもって構成し、会費を納入した者とする。

(会費)

第5条 会員は、次の年会費を納入する。
(1) 法人・団体 1口 5,000円 1口以上
(2) 個人 1口 2,000円 1口以上 (ただし、18歳未満は1口 500円、1口以上)

(役員)

第6条 この会に、次の役員を置く。
(1) 代表 1名
(2) 副代表 若干名
(3) 事務局長 1名
(4) 運営委員 40名以内
(5) 監事 2名

(役員の選任)

第7条 運営委員および監事は、会員の中から総会で選任するものとし、代表、副代表、事務局長は運営委員の互選によって決める。

(役員の分掌)

第8条 代表は、この会を代表し、会務を統括する。
2 副代表は、代表を補佐し、代表に事故あるときはその職務を代行する。
3 事務局長は会務を掌理する。
4 運営委員は会務を分掌する。
5 監事は、会の会務及び会計について監査する。

(役員の任期)

第9条 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。
2 補欠により選任された役員の任期は前任者の残任期間とする。

(アドバイザー)

第10条 この会にアドバイザーを置くことができる。

(会議の種類)

第11条 この会の会議は、総会及び運営委員会とし、総会は通常総会及び臨時総会とする。

(総会)

第12条 総会は、次の事項を審議する。
(1) 予算及び決算並びに財産目録に関する事項
(2) 事業計画及び事業報告に関する事項
(3) 役員の選任に関する事項
(4) 会則の変更に関する事項
(5) その他、会の運営に関する重要な事項

(運営委員会)

第13条 運営委員会は、次の事項を審議する。
(1) 総会の決議した事項の執行に関する事項
(2) 総会に付議すべき事項

(専門委員会)

第14条 運営委員会の下に専門委員会を置く。
2 専門委員会は、運営委員会の会務を分担してその執行に当たる。
3 専門委員会の数及び委員は運営委員会において決める。

(会議の招集)

第15条 会議は、代表が招集し、議長は代表が当たる。

(会議の開催及び議決)

第16条 通常総会は、毎年1回開催する。但し代表が必要と認めたとき、又は会員の3分の1以上の請求があったときは、臨時総会を開催する。
2 運営委員会は、代表が必要と認めたとき、又は委員の3分の1以上から請求があったとき開催する。
3 会議の議決は出席者の過半数をもって行う。

(会計)

第17条 この会の会計は、会費、寄付金及びその他の収入をもってあてる。
2 会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

付則

1 この会則は平成18年4月1日から施行する。

役員名簿

法人会員名簿

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| ◇ 有賀 望 (サケ学習・普及専門委員長) | ◇ 高橋 壽一 (事務局長) |
| 伊藤 和雄 (サーモンツアー専門委員長) | ◇ 高畠 一夫 (副代表) |
| ◇ 岩坂 哲男 | 竹田 正之 (監事) |
| ◇ 浦口 宏之 (サーモンツアー専門委員長) | 武部 保男 (監事) |
| ◇ 小川 和宏 (ネットワーク専門委員長) | 田辺 元樹 |
| 小野島 勇 | ◇ 寺尾 俊郎 (監事) |
| 蟹澤 和江 | ◇ 野崎 敦子 (市民講座専門委員長) |
| ◇ 金子 哲俊 | ◇ 野村 聰恵 |
| ◇ 菊池 基弘 | ◇ 橋本 篤 (会員交流専門委員長) |
| ◇ 木村 義一 (代表) | ◇ 原田 昭 |
| ◇ 小松 昭彦 (監事) | ◇ 馬場 栄治 (国際交流・家族の会代表) |
| 小松久美子 | ◇ 馬場 幸子 (市民講座専門委員長) |
| 小本 肇 (副代表) | ◇ 伴 真俊 |
| 萱場 利通 (組織強化専門委員長) | ◇ 福井暉久雄 |
| 金 俊彦 | ◇ 前鼻 昌司 (国際交流専門委員長) |
| ◇ 斎藤 宣丈 | ◇ 松川多美子 |
| ◇ 境 慧 (広報・記録専門委員長) | 森 一男 (広報・記録専門委員長) |
| 塩田 彥隆 | ◇ 山道 正克 (ホームページ専門委員長) |
| 神 純子 | ◇ 山本 令子 |
| ◇ 住谷 貞美 | 横山 憲治 |

(△印) 2015.4.1 現在の役員

助成金(補助金)提供

- ・国際交流基金
 - ・北海道国際交流・協力総合センター（前北方圏センター）
 - ・秋山記念生命科学振興財団
 - ・北海道CGC「みどりとこころの基金」

(株)アイビック
朝日商事(株)
網走漁業協同組合
網走合同定置漁業
㈲石狩川振興財團
石狩管内中小学校教頭会
石狩管内中小学校校長会
石狩市校長会
伊藤塗工部
(株)A P R
㈱大助
(有)オフィスつじ
(有)オフィス テイ・ケー企画
含笑寺 神谷英光
北広島市中小校長会
教育出版(株)北海道支社
クルベ・インターナショナル(株)
国際ソロプロミスト札幌中央
(株)後藤工事
札幌市豊平川さけ科学館

札幌クラークライオンズクラブ
札幌中央水産㈱
㈱札幌中央清掃社
佐藤水産㈱
猿払村漁業協同組合
山藤三陽印刷㈱
㈱シーアップル
標津漁業協同組合
標津サーモン科学館
スナック長崎
宝酒造北海道支社
千歳サケのふるさと村教授会
千歳市小中学校校長会
千歳青少年教育財団
トミヤ商事㈱
(公財)日本釣振興会道地区支部
楡印刷株式会社
(㈱)ノーザンクロス
野村漁業協同組合
浜中漁業協同組合

ひぐち耳鼻咽喉科
(株)藤井ビル
(株)フジワラ
フラット合成(株)
ポート中島
ホームテック(株)
北洋銀行
(学)北海学園
北海道漁業協同組合連合会
北海道国際交流・協力総合センター
北海道総合技術研究所
北海道定置漁業協会
北海道テレビ放送㈱
(株)北海道トライフル^ヅ
丸高水産株式会社
(有)丸雄設備
(株)ムラオカ食品
紋別漁業協同組合
(株)やまもく
(有)ラッコ

個人會員名簿

年 表

《2005年度 活動記録》

- 3.21 運営委員会（ホテルライフォート）・役員選出、規約、年次計画等
 4.19 運営委員会（ちえりあ）・予算書の決定、役員の役割分担など
 .23 雉魚放流式（真駒内川）・札幌クラークライオンズクラブと共に
 .25 会報準備号発行
 .27 札幌商工会議所観光担当樋口課長と協議（商工会議所）
 ・札商が計画する豊平川の観光開発事業に木村代表が助言
 6.3 広報担当者打合せ
 .9 勉強会・講師：竹村哲雄氏「協会の目指すものとロゴマークの考え方」
 .21 運営委員会（ちえりあ）・当面の事業について
 HTBから寄付・通常会費のほかに立ち上げ時の財政支援として100万円を頂けることとなった
 .29 公開市民講座のプロジェクト委員会・講座の原案を固め
 7.7 拡大プロジェクト委員会・講座の細案を協議
 .21 加森観光（東京支社古林氏）から協力依頼
 ・修学旅行の北海道誘致のため、北海道サーモン協会の協力が得られないかとの照会あり協議の上協力すると回答
 .28 カナダBC州の#83学校区へ、北海道サーモン協会の設立経緯と国際交流事業の継続を申し入れる
 8.2 Kim Fulton氏から、祝意と関係者への連絡を約す書簡が届く
 .11 運営委員会（ちえりあ）・市民講座事業の協議と役割分担など・フィールドワーク事業の協議
 9.14 運営委員会（ちえりあ）・事業の実行案協議
 .30 第1回公開市民講座「なくて安心！秋サケのすべて」（エルプラザ）・参加者延べ（110名）
 10.2 第1回サーモンロードふれあいツアー「遠藤アナと行く！秋サケと温泉の旅」
 ・浜益方面。参加者数（53名）
 .26 運営委員会（北方圏センター）・組織運営、会報発行など協議
 12.1 会報No1発行（1000部印刷）
 .2 運営委員会（北方圏センター）・常任委員会組織の承認など
 .19 広報・情報常任委員会・今後のスケジュールなど懸案を協議

〈2006年〉

- 1.19 拡大常任委員会（北方圏センター）・各委員会の基本事項を協議
 .24 カナダBC州第83学校区教育委員会のデイブ・ウィット氏から、協会の進捗状況について照会があった
 .26 運営委員会・全道ネットワークづくりなどの懸案協議・新年懇談会を実施
 2.14 ムラオカ食品浜井社長らとサケを核とする観光振興策について意見交換を行った
 ・ムラオカ食品及び（株）APR関係の会員申し込みが続き、個人会員（131名）、法人会員（38名）に達した
 .17 三役会議（サンローゼ）・補助金申請書類の確認、ネットワーク結成推進会議の開催、今後の日程を協議
 .24 豊平川さけ科学館と子ども向けサケ学習事業について協議

- 3.2 豊平川さけ科学館及びクラークライオンズクラブと子ども向けサケ学習事業について詰めの作業。「春休みサケ教室」の実施を決定
 .8 拡大常任委員会（トポリーノ）・ネットワーク結成推進会議、サケ教室、国際交流事業などを協議
 .15 ロータリークラブで木村代表が卓話
 .29 春休みサケ教室（豊平川さけ科学館）・親子3名が参加
 ・代表のサケの生態についてのお話や・稚魚の標識作業（アラビレ切り）の実習体験を行った
 .31 北海道サケネットワーク結成推進会議（ホテルライフォート）・参加は11団体（16名）
 ・会議に先立ち運営委員会を開催し会議の準備と懸案について協議を行った

《2006年度 活動記録》

- 4.19 運営委員会（北方圏センター）
 .22 雉魚放流式（真駒内川）・札幌クラークライオンズクラブと共に・21校100名の小学生等が参加
 5.12 定期総会（北方圏センター）
 ・年間計画、予算案、収入の確保等の審議・講話：木村代表「サケ談義」
 .19 北海道サケネットワーク準備会（北方圏センター）
 ・6.23（ホテルライフォート）・8.18（エルプラザ）・11.18発起人会、総会（ホテルライフォート）
 6.10 会報No2発行
 .15 運営委員会（北方圏センター）
 7.7 市民講座専門委員会（トポリーノ）
 .19 国際交流・ツアー専門委員会（北方圏センター）
 8.9 サケネット・市民講座・会員交流専門委員会（北方圏センター）
 .18 サケネットワーク発起人会（エルプラザ）
 9.1 運営委員会（北方圏センター）
 .8 国際交流専門委員会（北方圏センター）
 .15 サケネット専門委員会（北方圏センター）
 .25 運営委員会（北方圏センター）
 .30 第2回公開市民講座（エルプラザ）「なくて安心！神の魚・秋サケのすべて」
 ・講話「天然サケの魅力」「サケとアイヌ文化」、サケ料理試食・参加者（74名）役員（21名）
 10.14 第1回豊平川産卵床観察・河畔清掃活動（豊平川河畔・水穂～雁木）
 ・清掃・サケ遡上ウォッチング、イクラサンドイッチ試食
 .29 第2回サーモンロードふれあいツアー（余市川方面）
 ・水産博物館視察、サケの遡上観察、旧福原漁場見学・一般会員、役員など（35名参加）
 11.2 各専門委員会（かでる27）
 .17 会員交流会（きょうさいサロン）
 ・サケ保護のビデオ鑑賞、抽選会、懇談・会員・役員（30名参加）
 .18 サケネットワーク設立総会、北海道サケ会議（ライフォート札幌）・関係団体（参加者31名）
 .22 国際交流専門委員会（北方圏センター）
 12.10 会報No3発行

〈2007年〉

- 1.17 研修団員選考委員会（北方圏センター）
 .31 運営委員会（北方圏センター）

2.15 特別事業検討委員会（道総合技術研究所）

3.24～3.31

第1回サケ学習国際交流カナダ研修団派遣（8日間）

- ・札幌市内サケ学習実施小学校から12名の児童を選抜 <引率：高橋壽一、西田准子>
- ・訪問先：カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州第83学校区、バンクーバーなど

《2007年度 活動記録》

4.21 稚魚放流式（真駒内川）

- ・札幌クラークライオンズクラブなどとの共催
- ・サーモンスクール実践校から参加児童（約100名）

.25 運営委員会（きょうさいサロン）

5.9 定期総会（北方圏センター）

- ・活動報告、決算報告、事業計画、予算の決定
- ・小学生カナダ派遣事業のDVD映写

.28 会報No 4 発行、海外派遣報告特別号発行

6.13 運営委員会（きょうさいサロン）

8.3 第1回夏休み親子サケ教室（札幌市中央卸売市場）

- ・中央卸売市場
- ・水産協議会魚食普及委員会の協力
- ・星澤幸子クッキングキャスターのサケ調理教室
- ・木村代表のサケに関する講話
- ・親子参加者（39名）協会（5名）市場関係者（4名）

.29 運営委員会（きょうさいサロン）

9.29 第3回公開市民講座（エルプラザ）

- ・テーマ「北海道産サケを知ろう—自然健康食！秋サケのすべて」
- ・講話（北大 上田教授）、サケに関するクイズと解説（木村代表）、サケの生体観察、塩イクラの製造実習と試食、サーモン協会活動DVD視聴など
- ・一般参加者（86名）、サーモン協会（15名）、合計101名参加

10.4 運営委員会（北方圏センター）

.14 第3回サーモンロードふれあいツアー（増毛方面）

- ・暑寒別川のサケ遡上観察、採卵場見学、國稀酒造見学、温泉・バス車内のサケに関する講話（木村代表）
- ・参加者（32名）

.20～29

カナダ研修団の受け入れ

- ・3月の北海道派遣研修団に対する相互訪問
- ・カナダBC州第83学校区から中学生12名、教員3名
- ・ホームステイを中心とした国際交流・体験学習、千歳サケのふるさと館、札幌市長表敬訪問、豊平川さけ科学館、小学校訪問交流、小樽水族館、北海道神宮、円山動物園、青少年科学館、芸術の森、キタラ、スポーツ博物館などの見学、真駒内青少年会館でのさよならパーティー

11.17 北海道サケ会議（きょうさいサロン）

- ・「北海道サケネットワーク」総会に併せて実施。参加者数（39名）
- ・ワークショップ テーマ「サケマス保護事業の方向」

12.6 会員交流会 参加会員（32名）オーケション実施

.20 会報No 5 発行

- ・1,000部発行。字体ポイントを小さくし記事内容を充実させた

《2008年度 活動記録》

4.17 運営委員会（きょうさいサロン）

.19 稚魚放流式（真駒内川）

- ・札幌クラークライオンズクラブなどとの共催
- ・サーモンスクール実践校から児童約100名参加

5.9 定期総会（きょうさいサロン）出席者（30名）

.31 会報No 6 発行

7.31 第2回 夏休み親子サケ教室（札幌市中央卸売市場）

- ・札幌市豊平川さけ科学館と共に、札幌市教育委員会後援、中央卸売市場水産協議会魚食普及委員会の協力

- ・市場見学、サケの不思議な生態とクイズ、解剖、星澤幸子クッキングキャスターのサケ調理教室

- ・親子参加者（49名）、サーモン協会（7名）、市場関係者（10名）、参加者総数（66名）

8.28 運営委員会（きょうさいサロン）

9.27 第4回公開市民講座（エルプラザ）

「北海道産サケを知ろう—自然健康食！秋サケのすべて」その2

- ・一般参加者（午前34名）（午後30名）役員（18名）参加者総数（82名）

10.11～12

第4回サーモンロードふれあいツアー（十勝川方面）

- ・北海道サーモンネットワーク総会、北海道サーモン協会「サケ会議」（11日）

- ・講演：押田龍夫・帯広畜産大学准教授「サケが森へ運ぶ恵み・サケとクマの長い縁」

- ・十勝川インフォメーションセンター、魚道観察室、千代田堰堤、売買川サケ公園親魚放流見学とサケ祭り参加、温泉体験など
- ・バス車内のサケに関するクイズと講話（木村代表、浦野名誉教授）

- ・協会会員（11名）、一般（23名）参加者合計（34名）

.25 第3回豊平川産卵床観察・河畔清掃活動 参加者（13名）

12.4 運営委員会（きょうさいサロン）

.12 会員交流会（きょうさいサロン）

- ・会員提供の品でオークションを実施

.20 会報No 7 発行

（2009年）

2.19 運営委員会（きょうさいサロン）

3.26～4.3

第2回サケ学習国際交流カナダ研修団派遣

- ・札幌市内の小中学生（16名）をカナダBC州アームストロング地区へ派遣

<引率者：高橋壽一・橋本フミエ>

《2009年度 活動記録》

4.16 運営委員会（きょうさいサロン）

- ・総会議案
- ・役員交通費支給凍結
- ・紙芝居巡回事業、魚拓展の開催検討
- ・資金強化策検討

.18 稚魚放流式（真駒内川）

- ・カナダ派遣団事後研修（きょうさいサロン）

・広報専門委員会（ちえりあ）

5.7 定期総会（ホテルライフオート）

.28 会報No 8 発行

.29 全道サケネットワーク打合せ・浦野代表ほか（サンローゼ）

6.5 かじさやか氏とキャラクター、紙芝居制作について協議（豊平川さけ科学館）
 .12 中央卸売市場魚食普及委員長（竹田中央水産常務）へ協力要請 ・木村代表ほか
 7.2 青少年サケ学習・国際交流専門委員会（TKPビジネスセンター） ・サケ教室 ・カナダ研修団受入
 .6 運営委員会（ホテルライフォート）
 ・イメージキャラクター ・紙芝居制作のための小委員会設置 ・夏休み親子サケ教室
 ・市民講座 ・サケフェスタ ・カナダ研修団の来道
 .7 宮の森中学校訪問、カナダ研修団受入への協力依頼
 .23 イメージキャラクター小委員会（TKP）
 .28 千歳サケのふるさと館訪問打合せ ・木村代表ほか
 8.5 第3回夏休み親子サケ教室（中央卸売市場）
 .11 イメージキャラクター小委員会（TKP）
 運営委員会（TKP） ・イメージキャラクター決定 ・市民講座 ・サケフェスタ ・サーモンツアー
 ・サケ産卵床観察と河畔清掃 ・北海道サケ会議
 .31 北海道CGC基金訪問、助成金への協力要請（木村代表、萱場委員ほか）
 9.3 運営委員会（TKP） ・CGC（みどりとこころの基金） ・市民講座 ・サケフェスタ ・サーモンツアー
 ・サケ産卵床観察と河畔清掃 ・北海道サケ会議
 .7 国際交流専門委員会（TKP）
 .10 組織強化専門委員会・紙芝居制作小委員会（全日空ホテル）
 ・助成金確保 ・紙芝居制作
 .17 カナダ研修団受け入れホスト会議（きょうさいサロン）
 .23 さっぽろサケフェスタ協賛（札幌市豊平川さけ科学館）
 .25 紙芝居制作委員会（きょうさいサロン）
 .26 第5回公開市民講座（エルプラザ）
 10.10 第5回サーモンロードふれあいツア（千歳川方面） 協会（21名）一般（18名）参加
 .17 第4回豊平川産卵床観察と河畔清掃活動（25名参加）
 .19 サケネットワーク総会打合せ（サンローゼ） ・浦野代表ほか
 .20 カナダ側から「インフルエンザ蔓延のため今期の訪問を延期する」旨のメールが入る
 取り急ぎ「カナダ研修団来訪キャンセル」の連絡を各関係者に連絡
 .27 秋山財団による助成団体実態調査を受ける（京王プラザ） ・高畠副代表ほか
 .31 サケネットワーク総会、北海道サケ会議（豊平川さけ科学館）
 12.10 会員交流会（きょうさいサロン） 24名参加
 .28 会報No9発行

（2010年）

1.14 拡大三役会議（京王プラザホテル） ・紙芝居制作検討 ・助成金確保 ・新規の事業アイデア検討
 .21 フィンレイ校長からの新たな訪問時期の提案（5.20～28）に対し、ホストの意見を聴取。
 「受入れは差し支えない」旨を回答
 .28 北大院生スワンソンさん（サケを研究テーマ。米国人）とミーティング
 2.26 拡大三役会（きょうさいサロン） ・新年度計画協議 ・助成金確保 ・紙芝居制作 ・総会の持ち方
 ・会報 ・研修団父母の会の立ち上げ
 3.16 北方圏交流基金へ助成金申請

《2010年度 活動記録》

4.11 三役打合せ
 ・紙芝居制作延期（かじさやか氏の急病により） ・稚魚放流式 ・総会議案の検討
 .15 運営委員会（きょうさいサロン）
 ・総会日程 ・カナダ研修団来道 ・会報発行予定 ・稚魚放流式
 .17 稚魚放流式（真駒内川） 参加者（100名）
 .19 江別市教育委員会訪問 ・カナダ研修団来訪時の通訳者派遣依頼
 5.7 定期総会（きょうさいサロン） 出席者（21名）
 .20～28 カナダ研修団受け入れ（生徒14名、引率教員3名）
 ・昨秋、新型インフルエンザ蔓延により延期していたもの
 6.7 紙芝居小委員会（きょうさいサロン）
 .16 紙芝居制作研究（グランドホテル） ・読み手経験者（諸橋氏、杉山氏）との意見交換
 .18 紙芝居制作検討会（きょうさいサロン） ・かじさやか氏らと意見交換
 .18 会報No10発行
 .29 運営委員会（エルプラザ） ・今後の事業計画
 7.16 紙芝居小委員会（サンローゼ）
 8.2 第4回夏休み親子サケ教室（札幌市中央卸売市場） 参加：親子15組（32名）、その他（13名）
 .20 運営委員会（きょうさいサロン） ・今後の事業計画
 .26 拡大三役会議（きょうさいサロン） ・今後の事業展開、財政強化問題、紙芝居制作の方向など
 .30 國際交流基金助成金申込み
 .31 拡大三役会（きょうさいサロン） ・今後の事業展開、財政強化問題、紙芝居制作など
 9.20 サケフェスタ協賛参加（豊平川さけ科学館） 参加者（12名）
 ・サケ魚体展示・説明、サケの置物工作・販売
 .24 北海道CGC「みどりとこころの基金」事務局長訪問 ・申請書提出
 .29 イクラ作り（厚別区民センター） ・市民講座出席者配付用 参加者（6名）
 10.1 ネットワーク打合せ（サンローゼ） 浦野代表他（4名）
 .2 第6回公開市民講座（エルプラザ） 午前（28名）、午後（33名）、役員（20名） 参加者総計（81名）
 ・講話：菊池学芸員 料理講師：H.スワンソン氏、協会への寄付金募集、賛同者にイクラを提供
 .11 第4回豊平川産卵床観察・河畔清掃活動（豊平川河畔） 参加者（15名）
 ・札幌市豊平川さけ科学館館長によるサケの捕獲と説明
 .15 札幌市中学校校長会（柏中校長）を訪問 ・カナダ派遣事業への協力要請
 .15 広報委員会（市役所喫茶店） ・サーモンツアー打合せ
 .27 第6回サーモンロードふれあいツア（白老、ウヨロ川、虎杖浜温泉） 一般・会員参加者30名
 .29 全道サケネット総会・北海道サケ会議（エルプラザ） 参加者（32名）
 ・参加団体：札幌消費者協会、道漁連、標津漁協、中央水産、佐藤水産、食の安全・流通問題など
 11.4 國際交流基金助成金決定
 .12 運営委員会（きょうさいサロン） ・今後の事業計画 ・紙芝居事業は当面凍結へ
 .24 北海道CGC「みどりとこころの基金」助成金決定
 .26 協会「家族の会」の集会に参加（ギャニオン店） 事務局長ほか
 12.2 北海道CGC「みどりとこころの基金」事務局長訪問 契約書押印
 .10 会員交流会（きょうさいサロン） 参加者（32名）

- .15 大倉山小訪問 ・インターネット電話（映像）交流を観察、フィンレイ校長と挨拶
- .16 派遣団員選考委員会（きょうさいサロン）・15名の応募者から12名の団員を選考
- .20 会報No11発行

〈2011年〉

- 1.14 派遣団員の事前セミナー（きょうさいサロン）<4回開催>
- .25 運営委員会（きょうさいサロン）・新年度活動方針
- 3.26～4.3 第3回サケ学習国際交流カナダ研修団派遣
＜派遣小中学生12名、引率：高橋壽一、野崎敦子＞

《2011年度 活動記録》

- 4.11 三役打合せ（京王プラザホテル）
 - ・運営委員会、総会議案検討 ・決算書、予算書、新年度事業計画、人事案件
- .12 会計監査（京王プラザホテル）
- .15 運営委員会（エルプラザ）・総会日程 ・会報発行予定 ・稚魚放流式 ・イベントジャンパー製作
- .23 カナダ研修団員事後セミナー（きょうさいサロン）
- .28 定期総会（きょうさいサロン）
- 5.4～5 稚魚放流体験への協賛 ・真駒内川 役員延べ（13名）参加 市民3,000名超
- 6.2 会報No12発行
- .13 三役打合せ、組織強化専門委員会（エルプラザ）・収入増強計画
- .30 運営委員会（札幌エルプラザ）・今後の事業計画
- 8.4 第5回夏休み親子サケ教室（札幌市中央卸売市場） 20組参加、役員（8名）
- .20 運営委員会（きょうさいサロン）・サケフェスタ、市民講座、サケツア、豊平川清掃、カナダ派遣
- 9.18 三役打合せ ・サケフェスタ・塩イクラづくり
- .19 サケフェスタ協賛参加（豊平川さけ科学館） 参加役員 延べ（24名）
 - ・釣り堀ゲーム ・サケの置物づくり
- .22 塩イクラづくり講習会（厚別区民センター） 家族の会関係者など参加者（14名）
- .24 第7回公開市民講座「道産秋サケの魅力」（エルプラザ） 午前・午後 参加者計（86名）
- 10.6 広報専門委員会 ・編集方針
- .10 第7回サーモンロードふれあいツアー（積丹方面） 会員16名、一般17名 参加者計（36名）
 - ・余市川、積丹川視察 ・サクラマス資源（河村博氏講話） ・岬の湯 ・バスの中での講話、クイズ
- .19 第5回 豊平川産卵床観察・河畔清掃活動 参加者（10名）
- .22～29 カナダ研修団受け入れ 生徒12名、教員3名 ・サケ学習、学校訪問、各種施設見学
 - ・ホームステイによる日本生活文化の体験
- 11.5 全道サケネットワーク総会・北海道サケ会議（旭川市）
 - ・記念講演（小宮山英重氏） ・シンポジウム（木村代表ほか） ・忠別川、花園頭首工など視察
- .9 会員交流会（きょうさいサロン） 参加者（29名）
- 12.20 会報No13・カナダ研修団受入報告書の発行

〈2012年〉

- 1.13 カナダ研修団受入事業終了報告書提出（HIECC助成金への報告）
- 2.24 運営委員会 ・新年度活動方針
- 3.27 北海道CGC「みどりとこころの基金」助成金申請
- .30 運営委員会 ・決算、新年度事業・予算

《2012年度 活動記録》

- 4.13 会計監査（京王プラザホテル）
- .27 定期総会（エルプラザ）・事業報告、収支決算、新年度計画、新年度収支予算、役員承認
- 5.4,5 稚魚放流体験への協賛（真駒内川） 参加会員延べ（11名）・市民（1,150名）
- .23 北海道CGC「みどりとこころの基金」助成金決定
- .31 会報No14発行
- 6.21 運営委員会（きょうさいサロン）・今後の事業計画
- 7.25 運営委員会（きょうさいサロン）・公開市民講座計画、夏休み親子サケ教室計画、サケフェスタ計画、組織強化策
- 8.6 第6回夏休み親子サケ教室（札幌市中央卸売市場） 参加者（39名）、役員（5名）
- .24 運営委員会（きょうさいサロン）
 - ・公開市民講座細案、塩イクラ製造講習会案、サーモンツアーケース、サケフェスタ細案
- 9.9 三役打合せ ・サケフェスタ ・塩イクラづくり
- .17 サケフェスタ協賛（豊平川さけ科学館） 参加役員 延べ（8名）
 - ・サケ釣りゲーム ・サケの置物づくり
- .21 運営委員会（きょうさいサロン）
 - ・公開市民講座の役割分担、塩イクラ製造案、サーモンツアーケース、豊平川河畔清掃案、カナダ派遣団計画
- .27 塩イクラづくり講習会（厚別区民センター） 会員参加者（6名）
- .29 第8回公開市民講座「道産秋サケの魅力」（エルプラザ） 午前・午後 参加者延べ（84名）
- 10.8 第6回 豊平川産卵床観察・河畔清掃活動 参加者（12名）
 - ・大倉山小学校、宮の森中学校訪問 ・研修団員応募について協力要請
- .11 .20 第8回サーモンロードふれあいツアー（浦河・日高方面） 会員15名、一般9名 参加者計（24名）
- .25 運営委員会（きょうさいサロン）・サケネット会議案、年末会員交流会計画、横山委員北欧滞在経験談
- 11.2 全道サケネットワーク総会・北海道サケ会議（エルプラザ） 参加者（24名）
 - ・講演「三陸のサケ」浦野代表、阿部教授
- 12.7 会員交流会（きょうさいサロン） 参加者（18名）・サケの旅すごろく、オークション
- .7 カナダ派遣団選考委員会 ・13名（男子4名、女子9名）のうち12名を選考、通知
- .25 会報No15発行

〈2013年〉

- 1.12 カナダ派遣団（12名）事前セミナー（きょうさいサロン）<4回開催>
- .22 運営委員会（きょうさいサロン）・新年度活動の方向付け
- .26～4.3 第4回サケ学習国際交流カナダ研修団派遣

＜派遣小中学生12名、引率：高橋壽一、有賀望＞

《2013年度 活動記録》

- 4.15 会計監査（石狩管内町村会会議室）
- .18 運営委員会（きょうさいサロン）・総会提出議案の検討
- .26 定期総会（きょうさいサロン）出席者（21名）
・事業報告、収支決算、新年度計画、新年度収支予算、役員承認
- .27 カナダ派遣団事後研修（きょうさいサロン）
- 5.3～4 **稚魚放流体験への協賛（真駒内川）** 参加役員延べ（9名）、市民（1,500名超）
- .30 運営委員会（きょうさいサロン）・新年度事業の方向付け
- .31 会報No16発行
- 6.28 運営委員会（きょうさいサロン）
・公開市民講座計画、夏休み親子サケ教室計画、サケフェスタ計画
- 7.26 運営委員会（きょうさいサロン） 今後の行事細案
- 8.3 第7回夏休み親子サケ教室（市中央卸売市場） 親子（26名）役員（8名）調理：大澄かほる氏
- .29 運営委員会（きょうさいサロン）
・公開市民講座細案、塩イクラ製造講習会、サーモンツアー、サケフェスタ
- 9.20 運営委員会（きょうさいサロン）・今後の行事細案
- .23 サケフェスタ協賛参加（豊平川さけ科学館） 参加役員 延べ（8名）
・サイト訪問者（約280名）、会場全訪問者（約4,400名）・ミニサケ釣り大会・魚拓体験・サケ持ち上げ体験
- .25 塩イクラづくり講習会（厚別区民センター） 参加役員（7名）
- .26 第9回公開市民講座「道産秋サケの魅力」（エルプラザ） 午前・午後 参加者延べ（69名）
- 10.12 第7回 豊平川産卵床観察・河畔清掃活動 参加役員（10名）
- .14 第9回サーモンロードふれあいツアー（白老・豊浦方面） 会員15名 一般20名 参加者計（35名）
- .16～23 **カナダ研修団受け入れ**（15名。10年に1度の大型台風で1日遅れの来道）
・対面式 10/17 ・引率者との交歓宴 10/18 ・サヨナラパーティ 10/22
- .30 運営委員会（きょうさいサロン） 後の行事細案
- 11.2 全道サケネットワーク総会・北海道サケ会議（エルプラザ） 参加者（26名）
講演「生物多様性が支える森・川・海のつながり」（河村博氏）「サケを通して見た豊平川の河川環境」
（有賀望氏）「魚の気持ちを川の形に」（妹尾優二氏）
- .28 運営委員会（きょうさいサロン）・会員交流会細案
- .29 家族の会親睦会（KKR札幌）
- 12.5 **会員交流会（きょうさいサロン）** 参加者（18名・内役員11名）
・ゲーム、スライド（カナダ訪問団の様子）
- .25 会報No17発行、カナダ研修団受入報告書発行

《2014年》

- 3.27 運営委員会（TKP札幌駅カンファレンスセンター）・総会提出議案、将来構想

《2014年度 活動記録》

- 4.10 会計監査（石狩管内町村会会議室）
- .25 定期総会（TKPカンファレンスセンター）出席者（21名）
事業報告、収支決算、新年度計画、新年度収支予算、役員承認、将来構想検討特別委員会設置案了承
- 5.4～5 **稚魚放流体験への協賛（真駒内川）** 参加役員延べ（9名）、市民（1,400名超）
- .30 運営委員会（TKPカンファレンスセンター）・親子サケ教室等事業実施案
- .31 会報No18発行・会員等へ発送
- 6.28 運営委員会（TKPカンファレンスセンター）
・夏休み親子サケ教室、市民講座計画、夏休み親子サケ教室計画、サケネットワーク行事、将来構想検討特別委員会開催
- 7.25 運営委員会・将来構想検討特別委員会（TKPカンファレンスセンター）・今後の行事細案
- 8.4 第8回夏休み親子サケ教室（市中央卸売市場） 親子（18名）役員（5名）調理：大澄かほる氏
- .22 運営委員会（TKPガーデンシティ札幌駅前）
・塩イクラ製造講習会案、公開市民講座細案、サケフェスタ
- 9.12 運営委員会（TKPガーデンシティ札幌駅前）
・今後の行事細案、カナダ派遣引率者決定、将来構想検討特別委員会開催
- .19 塩イクラづくり講習会（白石区民センター） 参加役員（7名）
- .20 第10回公開市民講座「道産秋サケの魅力」（エルプラザ） 参加者延べ（42名・内役員11名）
午前・午後と分けず一日1回の実施
- .23 サケフェスタ協賛参加（豊平川さけ科学館） 参加役員 延べ 8名
・サイト訪問者（約400名）、会場全訪問者（約4,500名）・ミニサケ釣り大会・魚拓体験
・サケ持ち上げ体験を実施
- 10.3 運営委員会（きょうさいサロン）・今後の行事細案、カナダ派遣団員の応募状況
・将来構想検討特別委員会
- .11 第8回豊平川産卵床観察・河畔清掃活動 参加役員（9名）
- .18 全道サケネットワーク総会・北海道サケ会議（佐藤水産文化ホール） 参加者（26名）
・ネットワーク代表が河村博氏に交代
・講演「サケをシンボルとした故郷教育」窪川かおる東大特任教授、市村標準サーモン科学館長、浦野北大名誉教授
「サーモンロードふれあいツアー」はバス料金高騰により実施せず
- 11.28 運営委員会・将来構想検討特別委員会（TKPガーデンシティ札幌駅前）・今後の行事細案など
- 12.6 会員交流会（TKPガーデンシティ札幌駅前） 参加者（23名）
- .25 会報No19発行

《2015年》

- 1.10 カナダ研修団事前セミナー（TKPガーデンシティ札幌駅前）<5回開催>
- 3.26～4.3 第5回サケ学習国際交流カナダ研修団派遣
<派遣小中学生12名、引率：高橋壽一、松川多美子>

《2015年度 活動記録》

- 4.10 会計監査（石狩管内町村会会議室）
- .16 運営委員会（TKPガーデンシティ札幌駅前）
・総会議案検討、サケ稚魚体験放流への協力、など
- .23 定期総会（TKPガーデンシティ札幌駅前） 16名出席
・事業報告、収支決算、新年度計画、新年度收支予算、役員承認
協会の今後の方向については「会員の減少、会費未納者の増加、助成金の打ち切り、イベントへの集客の困難さ、バス利用料高騰による事業中止、運営委員の高齢化と参加者の減少、三役後継者の不在などの理由により、2015年度末をもって当協会を解散する。
2015年度の事業は『カナダ研修団の受け入れ』『北海道サケ会議の実施』『会報の発行』のみとする。協会の活動記録の整理を進める。2015年度の会費は徴収せず経費は協会備蓄資金を充当する。解散に伴う整理事務を行い残余協会資産の処理は運営委員会で検討し贈与先を選定するとの提案について承認された。
- 5.3～5 稚魚放流体験への協賛（真駒内川） •役員 延べ12名参加。会場には延べ3,830人の来場
- .31 会報No20発行
- 6.1～ 主要会員等への挨拶回り
随時三役打合せ
- 7.29 サケネットワーク事務局会議（三越ランドマーク）
- 8.8～25 借り上げ事務所整理（豊平川さけ科学館内）
- .20 サケネットワーク事務局会議（三越ランドマーク）
- 10.16～21 サケ学習国際交流事業カナダ研修団受け入れ（生徒12名、教員3名）
千歳市、札幌市訪問
- 11.7 サケネットワーク総会・全道サケ会議（佐藤水産文化ホール） 23名参加
〈テーマ〉「サケの生産、流通をめぐる現状と課題・展望」
講演：北海道新聞・本田良一編集委員、標準漁業協同組合・織田美登志専務理事、
日本水産（株）・檜垣匡英事業第二課長、佐藤水産（株）・佐藤公彦取締役
- （2016年）
1. サケネットワーク事務局会議（三越ランドマーク）
2. 「カナダ研修団受入れ報告書の発行」
3. 「サーモン協会の活動記録をまとめた『記念誌「囁」』（別冊：協会のホームページで掲載した「鼻曲り談義」をベースに加筆補完した「鼻曲がり雑話」）の発行
・資料収集整理 ・執筆編纂 ・贈呈先集約 ・発送
- 4.～5. 「サーモン協会の解散について承認を得る『総会』の開催」
・15年度の事業・収支報告 ・協会資産の残余整理と残余が出た場合の贈与先の選定
・運営委員会を開催し総会議案などの検討

サケのささやき

サーモン協会の重点事業のひとつが「国際交流事業」です。

小中学生によるカナダ（BC州 第83学校区）との隔年交流事業ですが、カナダの受け入れに中心的な役割を果たされたキム・フルトン氏（元小学校長、環境保護リーダー）が、何時も熱く語られていたなかに『サケのささやきに耳を傾けなさい。』という、環境保全の大切さを繰り返し私たちに呼びかけた言葉があります。今も強く印象に残っています。

「囁」はフルトン氏への畏敬の念を表わしたもので、と同時に幕を下ろすサーモン協会の理念を、何時の日か、誰かが受け継いでほしいとの囁きでもあります。

（編集委員会）

走りつけた10年の足跡「サケの囁」

発行日 2016年3月31日

編集 北海道サーモン協会 編集委員会

発行人 北海道サーモン協会

（連絡先）〒006-0839

札幌市手稻区曙9条1丁目10-25

高橋壽一 TEL 090-1523-3278

印 刷 山藤三陽印刷株式会社

TEL 011-661-7161

©北海道サーモン協会 2016